

令和6年度
(2024年度)

事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)



学校法人巨樹の会

目 次

I 学校法人の概要

1. 学校法人の概要	P	1
2. 事業計画	P	3
3. 運営方針	P	4
4. 教育計画	P	5
5. 設置する学校・学科等	P	7
6. 学生数の状況	P	8
7. 役員の概要	P	9
8. 国家試験合格状況	P	10

II 事業の概要

1. 令和6年度事業の概要	P	11
2. 各学校の事業報告		
令和健康科学大学	P	15
小倉リハビリテーション学院	P	33
下関看護リハビリテーション学校	P	35
八千代リハビリテーション学院	P	45
福岡水巻看護助産学校	P	46
武雄看護リハビリテーション学校	P	50

III 決算の概要	P	53
-----------	---	----

1.学校法人の概要

基本理念

手には**技術**、頭には**知識**、患者様には**愛**を

創設者の蒲池眞澄は、「患者のために医療を行う」という強い思いで、昼夜を問わず救急医療に励んできました。その中で医師のパートナーである看護師の教育を行いたいという熱い思いから看護学校を設立しました。また、患者様の生命を救った後の、日常生活動作の回復を考え、リハビリテーションを重視し、理学療法士、作業療法士の育成のためリハビリテーション学院を開校しました。さらに昨今の多様化する医療に応えうる人材を育成すべく、令和4年4月に看護学部、リハビリテーション学部を備えた「令和健康科学大学」を開学し、助産師教育を含む姉妹校専修学校5校とともに、新たな歴史を刻んでおります。

建学の精神

創設者の信念である「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」を基本理念とし、医療のスペシャリストになりたいという学生の夢の実現のために「人間愛・自己実現」を教育理念として掲げ、人間性豊かで、社会に貢献できる実践能力を身につけた医療の専門職業教育を目指しています。

教育理念

人間愛・自己実現

学校法人巨樹の会の教育理念は「人間愛・自己実現」という人間の根本精神をあげ、一人ひとりの学生が人間愛の精神に基づき、対象を深く理解し、受け入れ、専門的な知識、技術、態度を身につけることができるような人材育成を目指しています。さらに、医療看護分野の専門性の追求のみならず、一生を通じて人格向上の努力を続け、自己実現していけるような人を育てています。

教育にかける情熱

学校法人巨樹の会は、創設者である蒲池眞澄の「医師のパートナーである看護師の教育を行いたい」という熱い思いから始まりました。さらに、本法人は急速な少子高齢者社会の進展や疾病構造の変化により、在宅分野や予防分野など、リハビリテーションの需要がさらに増大してくる事を鑑み、その中核を担うセラピストの育成にも力を入れています。

知識は、学習の習慣と方法を修得できれば身につけることができます。しかし、医療従事者になりたいという思いは、他者から指導されて身につくものではありません。本当に医療従事者になりたいという思いをもった受験生にきてほしい、これが本法人の創設者の願いです。

本法人では、「人間愛・自己実現」という教育理念のもとで、基礎教育と臨床研修との一貫教育を中核に掲げ、患者様のために実践できる能力を身につけ、社会に貢献できる有能な人材の教育を行っています。

現在、本法人の専門学校5校の卒業生は16,000人(令和6年3月閉校:福岡看護専門学校・福岡和白リハビリテーション学院 卒業生含む)を超え、看護師・助産師・理学療法士・作業療法士として、全国の医療の第一線で活躍しています。

〔 沿革 〕

平成 2年 4月	学校法人 福岡保健学院 福岡看護専門学校(3年課程)開校
平成 4年 4月	福岡看護専門学校2年課程(夜間定時制)開設
平成16年 4月	小倉リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 下関リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 八千代リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 福岡看護専門学校2年課程(通信制)開設
平成19年 4月	福岡和白リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校
平成20年 4月	福岡看護専門学校水巻校(3年課程)開校
平成22年 4月	下関リハビリテーション学院に看護学科を開設 名称変更:下関看護リハビリテーション学校へ
平成22年 9月	みずまき助産院ひだまりの家を開院
平成23年 4月	武雄看護リハビリテーション学校(看護学科・理学療法学科)開校 福岡看護専門学校水巻校に助産学科を開設 名称変更:福岡水巻看護助産学校へ
令和 2年 4月	学校法人名を「学校法人巨樹の会」へ変更
令和 4年 4月	令和健康科学大学 開学 看護学部 ・看護学科 リハビリテーション学部 ・理学療法学科 ・作業療法学科
令和 6年 3月	福岡看護専門学校 閉校 福岡和白リハビリテーション学院 閉校

2. 事業計画

—— 学校法人巨樹の会 2024年度事業計画 ——

第1期 中期計画 2022年度～2027年度(6年間)

- | | |
|--------------|--------------------------------------|
| 1. 教育 | 大学及び専門学校が目指す、養成する人材像に向けた質の高い教育活動の実現。 |
| 2. 研究 | 臨床実践に寄与できる研究を推進する。 |
| 3. 地域連携・社会貢献 | 地域・社会との連携を推進し、社会貢献活動を積極的に行う。 |
| 4. 組織運営 | 理事長を中心とした健全かつ適正な経営を行うためのガバナンス体制の強化 |
| 5. 施設設備 | 質の高い教育を目指すための計画的な施設設備の拡充及び整備 |
| 6. 財務基盤 | 学生の確保、適正化を目指した経費の効率化 |

2024年度(令和6年度) 学校法人巨樹の会 基本方針

<2024年度事業計画の概要>

法人設立から33年目を迎えた2022年4月に令和健康科学大学を開学し、2024年3月には法人設立時に開学した福岡看護専門学校及び2007年4月開学した福岡和白リハビリテーション学院が閉校を迎えました。両校とも令和健康科学大学へ転換する発展的な閉校ではありますが、長きにわたり2校の学校運営に携わって頂いた方々に深く感謝致します。今年度より1校の大学と5校の専門学校を運営する学校法人として、建学の精神にある人間性豊かで、社会に貢献できる実践力を身につけた医療の専門職業教育を目指すため、健全かつ適正な経営を行うためのガバナンス体制の強化を行い、学校法人を取り巻く様々な課題を見据えた改革に取り組みながら、着実に事業を推進してまいります。

I. 新規事業

1. 私立学校版ガバナンスコードの策定
2. 法人の教職員がグループの歴史や理念に深く知る機会を持ち、誇りと喜びを共有できる組織づくり
3. 各種規程の整備及び業務のマニュアル化の推進
4. 安定的な財政基盤の構築
5. 収益事業部門の適正化を実現

II. 継続事業

1. 令和健康科学大学大学院健康科学研究科(仮称)設置に向けた取り組み
2. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進
3. 退学者抑制の取り組み(進級率・卒業率90%以上の実現)
4. 国家試験合格率100%実現に向けた取り組み
5. 定員充足への取り組み
6. 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進
7. 事務執行の業務効率化を高めるべく、各種文書の電子化の促進
8. 働きやすい職場環境づくりの取り組み
 - 1) メンタルヘルスケア体制の充実と健康管理を推進
 - 2) ハラスメントを防止し快適な職場づくりを実現
 - 3) 年次有給休暇の取得促進のための取り組みを実施

3. 運営方針

—— 令和6年度 学校法人巨樹の会 運営方針 ——

1. 科学的な根拠に基づく実践力を身につけた医療従事者の養成を行う。

- 1) 基礎教育と臨床研修との一貫教育の徹底
 - (1) 実践能力の強化に向けた教育体制作り
 - (2) 一人ひとりを大切にした教育体制(90%以上の進級・卒業率を目指す)
 - (3) 専門職連携を踏まえた教育の強化
- 2) 国家試験資格取得にむけての確実な指導体制(100%合格を目指す)
- 3) 関連施設への就職(昨年度以上の就職率を目指す)

2. 次世代教育に向けて、実践力のある教員の教師力、事務の実務能力を育成する。

- 1) 教育の効率、主体的学習意欲を高めるICT機器活用ができる能力の育成
- 2) 専任教員の教育実践における質向上への取組み
専任教員養成講習会(NS)・養成施設教員等講習会(PT・OT)への参加促進
- 3) 大学におけるFD・SDの充実とその活用を促進する
- 4) 学内・学外における研修制度の活用
- 5) キャリア向上のための修士・博士課程の大学院進学への推進

3. 令和健康科学大学開学後のスムーズな教育への導入と教育実践・評価を行う。

- 1) 各学部の教育活動について、三つの方針に則り、教育の質の保証と向上を図る。
学位授与の方針(DP) 教育課程編成・実施の方針(CP) 入学者受入れの方針(AP)
- 2) 教育の質向上を継続的に図るため、内部質保証システムの運用と教育の見直しを行う。

4. 大学及び専門学校の将来構想に向けて、法人としての方針を出す。

- 1) 専門学校、大学の入試状況の変化を捉えて、10年後の方針を検討していく。

4. 教育計画

I. 教育の強化

1. 自ら状況判断できる看護師、助産師、理学療法士、作業療法士を育成するために、「主体的に学ぶ」という姿勢を育む教育を実践する。
 - 1) 知識注入型の教育ではなく、思考する教育方法を取り入れた講義、演習、実習に取り組んでいく。
 - 2) 様々な学生指導において、指示待ちではなく自分で考えさせる指導方法を実践する。
 - 3) 学生のやりたいという思い(モチベーション)を大切にした教育を工夫する。
 - 4) 自分にも出来るというような達成感を感じられる教育方法、学生を認める関わりを実践する。
2. ICT教育を全面的に取り入れた授業運営を通して、カリキュラム評価を行い、カリキュラムを運営する。
 - 1) ICT教育の徹底を図り、教育効果を高める教育方法の向上を目指し運営する。
 - 2) カリキュラムの運営を通して、講義・演習・実習における評価を検討し、教育内容・方法・技術の強化を行い運営する。

II. 学生支援について

1. 学生支援体制を整える。
 - 1) 学生の主体性を尊重した教育的な関わりをもち、学生の支援体制をつくる。
 - 2) 教員自ら積極的に挨拶を行い、学生との関わる機会をふやし自ら学生のモデルとなる。
 - 3) 学校カウンセラー・健康担当医と連携して、学生の学業継続を支援する。
 - 4) 教科外活動、課外活動などを通して、学生間の交流を図る。
 - 5) 早めの就職指導を行い、卒業生の就職率を高める。
 - 6) 卒後3年間の臨床経験を通して実践力を身につけることができる卒後教育が充実した病院への就職を斡旋する。

III. 国家試験対策の強化

1. 国家試験全員合格に向けての対策の強化を図る。
 - 1) 昨年度の国家試験対策の評価を行いながら、国家試験対策の強化を図り、全員合格を目指す。
 - 2) 各学年の学生の傾向を分析しながら、教育方法を工夫し、学生の基礎学力の向上を図る。

IV. 入学生確保について

1. 入学生の確保を強化する。

- 1) 広報委員会を中心とした計画的運営により、広報活動を積極的に行う。
ホームページ、ブログ、リスティング等、WEB上の広報活動の充実を図る。
パンフレット、配布資料、広告、募集活動の工夫を行う。
- 2) 各科の特徴を生かした募集活動を、WEBを含めて戦略的に行う。
看護学科: 指定校推薦校の見直し、募集活動の早期化、範囲拡大(地域、大学など)
進路指導教員へのアプローチ、入試の定着、募集活動の範囲・学校訪問
数の拡大、複数回の訪問
PT・OT: 奨学金制度の充実、進路指導教員へのアプローチ、複数回の学校訪問、
充実したオープンキャンパスの開催
OTの職業認知を徹底的に高める活動を実践

V. 管理体制の強化

1. 専門学校においては「職業実践専門課程」の継続的な認定を目指す。

- 1) 企業等との連携を図り、「教育課程編成委員会」を参考にカリキュラムの改善を行う。
- 2) 「学校関係者評価」を実施し、教育における教育内容・教育方法を充実させる。
 - (1) 授業・演習・実習指導等についての授業評価を計画・実施して、自己の指導の指針とする。
 - (2) 学校関係者評価の結果について外部公表を行い、各校改善を行う。

2. 教職員の目標管理を活用し、教職員の必要となる能力の向上に努める。

- 1) 教職員の適正人数の配置を行う。
(教職員の人員配置、実習指導教員の強化、図書司書の配置)
- (1) 目標管理を行うことで、教職員自身の役割を明確にし、主体的な判断や行動ができるようにする。
- (2) 教職員をサポートする研修体制の充実を図る。
 - ① 関連学校における中央研修への積極的な参加
 - ② 各専門領域での専門性を向上させるための研修の支援体制の整備

3. 円滑な学校運営を行う。

- 1) 情報機器の活用により、業務の効率化、情報の共有化を図るとともに、情報セキュリティ対策を強化する。

5. 設置する学校・学科等

大学

令和6年5月1日現在

学校名	開校年月	学 部	学 科	修業年限	入学定員	総定員数
令和健康科学大学	令和4年4月	看護学部	看護学科	4年	80名	240名
		リハビリテーション学部	理学療法学科	4年	80名	240名
			作業療法学科	4年	60名	180名

専修学校

学校名	開校年月	学 科		修業年限	入学定員	総定員数
小倉リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名
		理学療法学科	夜間コース	4年	40名	160名
		作業療法学科	昼間コース	3年	40名	120名
下関看護リハビリテーション学校	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名
八千代リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	120名	320名
		理学療法学科	夜間コース	4年	40名	160名
		作業療法学科	昼間コース	3年	80名	200名
福岡水巻看護助産学校	平成20年4月	看護学科	3年課程 全日制	3年	80名	240名
		助産学科	1年課程 全日制	1年	16名	16名
武雄看護リハビリテーション学校	平成23年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	40名	120名
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名

助産院

施 設 名	開設年月	部屋数	備 考
みずまき助産院 ひだまりの家	平成22年9月	6床	・H22.9～H23.3まで出張助産にて運営 ・R6.12 閉院

6. 学生数の状況

(令和6年5月1日現在)

令和健康科学大学

(単位:人)

学 部・学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
看護学部 看護学科	80	226	86	2.83	240	261
リハビリテーション学部 理学療法学科	80	149	88	1.86	240	240
リハビリテーション学部 作業療法学科	60	64	39	1.07	180	121
計	220	439	213	2.00	660	622

小倉リハビリテーション学院

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
理学療法学科(昼間)	80	77	74	0.96	240	229
理学療法学科(夜間)	40	13	12	0.33	120	76
作業療法学科(昼間)	40	43	41	1.08	160	108
計	160	133	127	0.83	520	413

下関看護リハビリテーション学校

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
理学療法学科	80	34	35	0.43	240	128
看護学科 (3年課程 全日制)	40	31	30	0.78	120	93
計	120	65	65	0.54	360	221

八千代リハビリテーション学院

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
理学療法学科(昼間)	120	140	121	1.17	320	307
理学療法学科(夜間)	40	38	5	0.95	160	105
作業療法学科(昼間)	80	79	51	0.99	200	139
計	240	257	177	1.07	680	551

福岡水巻看護助産学校

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
看護学科 (3年課程 全日制)	80	83	63	1.04	240	187
助産学科	16	65	16	4.06	16	16
計	96	148	79	1.54	256	203

武雄看護リハビリテーション学校

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
看護学科 (3年課程 全日制)	40	50	36	1.25	120	116
理学療法学科	40	45	41	1.13	120	118
計	80	95	77	1.19	240	234

法人全体数	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
	916	1,137	738	1.24	2,716	2,244

7. 役員及び評議員の概要

(令和7年3月31日現在)

①役員・評議員の数

	選任条項別定数実数					
	選任基準			定数	実数	
理 事 (定数7～11)	7-1-1	学校長及び学院長	理事会選任	1～2	2	10
	7-1-2	評議員	評議員会選任	4～5	4	
	7-1-3	学識経験者	理事会選任	2～4	4	
監 事	-	-	理事長選任	2	2	2
評議員 (定数16～23)	26-1-1	法人職員	理事会選任	4～6	4	21
	26-1-2	卒業生	評議員会選任	3～5	5	
	26-1-3	学識経験者	理事会選任	9～12	12	

②役員名簿

役 職	氏 名	就任年月日	常勤・非常勤	選任基準
理事長	蒲池 眞澄	H1.8.1	常勤	7-1-3
理 事	寺坂 禮治	R3.10.23	常勤	7-1-1
理 事	片山 薫	R4.6.1	非常勤	7-1-1
理 事	鶴崎 直邦	H8.8.1	非常勤	7-1-2
理 事	山本 智子	R4.4.4	常勤	7-1-2
理 事	中野 盛夫	H23.3.28	非常勤	7-1-2
理 事	西村 泰治	R2.10.1	常勤	7-1-2
理 事	藤井 茂	H31.3.2	非常勤	7-1-3
理 事	稲川 利光	R3.10.23	常勤	7-1-3
理 事	樋渡 啓祐	R4.6.1	非常勤	7-1-3
監 事	生野 憲生	R4.4.1	非常勤	-
監 事	本岡 大祐	H30.6.1	非常勤	-

8. 国家試験合格状況

<第114回 看護師 全国平均合格率 90.1% 第108回助産師 全国平均合格率 98.9%>

学校名	学科名	受験者数	合格者数	合格率(%)	課程別 全国合格率(%)
福岡水巻看護助産学校	看護学科 (3年課程 全日制)	66	64	97.0%	95.7%
	助産学科	16	16	100%	99.3%
下関看護リハビリテーション学校	看護学科 (3年課程 全日制)	29	28	96.6%	95.7%
武雄看護リハビリテーション学校	看護学科 (3年課程 全日制)	41	41	100%	95.7%

<第60回 理学療法士・作業療法士 全国平均合格率 PT 89.6% OT 85.8%>

学校名	学科名	受験者数	合格者数	合格率(%)	新卒 全国合格率(%)
小倉リハビリテーション学院	理学療法学科 (昼間・夜間)	115	105	91.3%	95.2%
	作業療法学科(昼間)	33	33	100%	92.5%
下関看護リハビリテーション学校	理学療法学科	46	46	100%	95.2%
八千代リハビリテーション学院	理学療法学科 (昼間・夜間)	112	110	98.2%	95.2%
	作業療法学科(昼間)	37	35	94.6%	92.5%
武雄看護リハビリテーション学校	理学療法学科	41	41	100%	95.2%

Ⅱ. 事業の概要

1. 令和6年度事業の概要

学校法人巨樹の会の令和6年度における事業の総括概要は、以下の通りである。

1) カマチグループ 50 周年記念

令和6年4月1日にカマチグループは創立50周年を迎えた。50周年の記念行事として、記念式典及びパーティーの実施、記念誌が発刊された。記念植樹については、令和健康科学大学のキャンパスにカマチグループの象徴であるクスノキが植えられた。



2) 令和健康科学大学大学院 設置認可

令和健康科学大学では、より一層の教育・研究の発展、地域保健医療へのさらなる貢献のあり方を検討し、専門職連携教育を特色とした教育課程を編成して教育研究を行っている看護学及びリハビリテーション学の学部教育を基盤とした、「健康科学研究科医療系健康科学専攻」の設置計画を策定し、令和6年8月29日に設置認可された。

健康科学研究科医療系健康科学専攻は以下の2つの分野、4つのコースとなっている。

(1) 看護学分野 看護学教育・人材育成コース

看護学教育・人材育成コースは「看護管理学」「看護教育学」「地域・在宅看護学」「精神看護学」の4つの看護学の専門性を深め、看護管理学領域、看護教育学領域、地域包括ケア領域の教育および研究に関する能力をより高めるためのコースである。

(2)看護学分野 実践看護学コース

看護学分野 実践看護学コースは看護に関するより高度な専門知識と技術を修得し、実践力と研究に関する能力をより高めるためのコースである。また、修了課程を修了するとともに自由科目に配当された NP 養成関係科目を履修し、必要な単位を修得することにより診療看護師（NP）資格認定試験の受験資格を得ることができる。

(3)リハビリテーション学分野 心身機能支援コース

リハビリテーション学分野 心身機能支援コースは ICF（国際生活機能分類）に基づき、対象者の心身機能や身体構造に基盤を置き「運動機能」「脳機能」および「摂食嚥下機能」の 3 つの領域に関して、高度な専門知識と技術、教育および研究に関する能力をより高めるためのコースである。

(4)リハビリテーション学分野 生活支援コース

リハビリテーション学分野 生活支援コースは ICF（国際生活機能分類）に基づき、対象者の活動と参加に基盤を置き、「生活機能」「生活環境」および「福祉工学」の 3 つの領域に関して、高度な専門知識と技術、教育および研究に関する能力をより高めるためのコースである。

3) 学校法人寄附行為変更認可

令和健康科学大学大学院「健康科学研究科医療系健康科学専攻」の設置に伴い、令和 6 年 8 月 29 日に学校法人寄附行為変更が認可された。令和 6 年度は、令和健康科学大学の開設から大学法人へ移行して 3 年目となり、業務を適正に執行するためのガバナンス及びコンプライアンスを念頭に置きながら、法人運営を実行している。今後も、法人内の様々な問題を円滑に対応できる仕組みや体制等の整備を進めていく。

4) 内部監査室の設置

令和 6 年 8 月、学校法人巨樹の会 内部監査規程に基づき内部監査室を設置した。監査訪問スケジュールに則り、法人が設置する学校に実際に訪問し、業務監査、会計監査、システム監査、教学監査等、各監査の種類に応じてヒアリングや査覧の方法により実施した。また、監事に対しても情報提供を実施し、意見聴取を行い、監事の意向を内部監査へ反映できるよう連携体制の構築を行った。

5) みずまき助産院 ひだまりの家の閉院

みずまき助産院 ひだまりの家は平成 22 年 9 月に開院し、閉院までの約 14 年間で 600 件を超えるお母さんと赤ちゃんに出会い、お産だけでなく、産後のケアや育児相談などの様々なケアに加え、母親学級や、ヨガ教室などイベント活動を通じて地域のコミュニティの場としてもその役割を担ってきたが、令和 6 年 12 月末日をもって惜しまれつつも閉院となった。

学校法人巨樹の会においても、助産学科及び看護学科の臨地実習施設として、貴重な命の現場に立ち会わせて頂き、生まれる力、産む力、子育ての尊さについて深い学びを得ることが出来た。

6) その他の事業

(1) 運営体制の強化

定期で行われる理事会の他、常任理事会を開催し、法人の運営及び経営が滞りなく執行できるような体制をとっている。

＜実施状況＞	理事会	3 回
	評議員会	3 回
	常任理事会	3 回

(2) 教職員の資質向上の取り組み

＜大学院進学推奨制度申請実績＞

専門学校 5 校の教員及び全校の事務職員に対する「人材の育成」、「職員の資質向上」、「教育基盤の充実」を目的として、大学院（大学院設置基準第 14 条適用大学院、および学校法人理事長がこれらに準ずる大学院であると認定するもの）への進学推奨制度を策定し、「大学院進学（修士・博士）推奨規程」を制定している。

（申請実績）

年 度	博士課程	修士課程
平成 29 年度以前	1 件	12 件
平成 30 年度	4 件	10 件
平成 31 年度	1 件	1 件
令和 2 年度	0 件	2 件
令和 3 年度	1 件	1 件
令和 4 年度	1 件	2 件
令和 5 年度	0 件	1 件
令和 6 年度	1 件	2 件

尚、申請の増加促進するため、一部規程を見直し、令和 6 年 4 月 1 日より改訂している。

＜学会発表及び論文掲載発表実績＞

専門学校 5 校の教員及び事務職員における研究成果について、各種学会等へ発表することを奨励し、発表を行った職員及び論文が専門紙に掲載された職員に対しては「学会発表・論文発表褒賞に関する細則」に則って褒賞金の支給を行っている。

（発表実績）※平成 31 年度以前は未集計

年 度	学会発表	論文発表
令和 2 年度	7 件	10 件
令和 3 年度	1 件	5 件
令和 4 年度	3 件	2 件
令和 5 年度	2 件	3 件
令和 6 年度	1 件	0 件

<合同学術研究発表会参加>

カマチグループで実施している年2回の合同学術研究発表会に、学校法人の各校も参画し、若手職員の育成に努めている。

<ヘルスリテラシー研修>

関連グループである巨樹の会 健康保険組合主催のヘルスリテラシー研修が開催され、学校法人の教職員も延べ30名が参加した。オンラインで開催された計3回の研修会では、メンタルヘルスと、喫煙及び女性特有の健康課題について必要な知識を学ぶことが出来た。(講師：SOMPOヘルスサポート株式会社)

<事務職員研修>

学校法人の事務スタッフのICTスキルの向上を図ることを目的として、Geminiの研修会を行った。学校法人巨樹の会では、業務効率の向上と学校間の効率的な情報共有を目指し、GoogleWorkspaceを導入している。Google認定教育者及びGoogle認定トレーナーの資格を持つ法人内の職員が講師となり研修を行うことで、実態に合った講義内容となり、業務サポートが可能な生成系AIの活用法を学ぶことができた。

(3) 国家試験合格率100%及び退学者抑制の取り組み

国家試験合格率100%実現に向けた取り組みの一つとして、専門学校5校において、看護師、助産師、理学療法士、作業療法士の国家試験の合格率に応じて教職員へ報奨金を支給している。また、退学者抑制の取り組み（進級率・卒業率90%以上の実現）として受け持ったクラスの学生の進級率に応じた担任進級手当支給制度を導入している。

このようなインセンティブ制度を設けることにより、目標が明確となり、教職員の達成感やモチベーションのアップ、業務意欲の向上、チームワークの強化も目指している。

2. 各学校の事業報告

法人の事業方針に基づいて、各校が策定した事業報告への主な取り組みは以下のとおりである。

令和健康科学大学

～日本の医療を変える大学を作る～

令和6年度は、令和健康科学大学が開学し3年を迎え、次年度は完成年度を迎えることを念頭に置きつつ、大学設置計画書に基づき運営した1年間であった。

第3期の入学生は、令和6年4月1日時点で看護学部 看護学科86名、リハビリテーション学部 理学療法学科88名ならびに作業療法学科39名の合計213名であり、全体で看護学部 看護学科は258名、リハビリテーション学部 理学療法学科は240名、リハビリテーション学部 作業療法学科は121名の合計619名となった。

また教職員は令和6年4月1日時点で教授3名、助教2名、助手5名の後任補充、事務職員1名を採用した。

上記採用に加え、新たに副学長・図書館長として原 寿郎氏が令和6年4月1日付で就任され、職務として教育カリキュラムの統括、大学評価・認証評価(自己点検等含む)に関する規程・規則の制定を行った。

また、教育の部分においてはカリキュラムの見直しに着手し、令和9年度をめどに検討を進めていることとしている。令和7年度も引き続き検討を進め、より良い教育環境を整えていく。

その他、前年度の事業計画であった大学院(健康科学研究科)の設置に向けて準備を行い、令和6年8月に設置認可を得て、令和6年12月及び令和7年1月に入学者選抜を実施した。

令和6年度の実施状況に関する詳細は、以下のとおりである。

1. 教育 計画(教育)

設置計画を踏まえ、特色ある実践的なカリキュラムを実施するとともに、ICT教育を含めた教育内容、方法の充実を図るとともに、基幹分野のあり方を含め、カリキュラムの見直しに着手する、また、大学院の設置を目指す。

実施状況

事業計画に基づき、教育課程の編成及び実施を推進するとともに、学生の成長を支援する教育を実施した。

令和6年5月1日時点の学生数は下記のとおりである。

学部・学科	1年生	2年生	3年生	計
看護学部 看護学科	89	86	86	261
リハビリテーション学部 理学療法学科	86	84	68	238
リハビリテーション学部 作業療法学科	39	56	46	141
計	214	226	200	640

(休学者数を含む)

1) 新カリキュラム編成

来年度、完成年度を迎える本学のカリキュラムについて、各学科において様々な課題があることから、教務委員会のもとにカリキュラム検討会議において、審議を行いカリキュラム改正に係るスケジュールの作成を行った。

2) 既修得単位認定に係る規定の作成

既修得単位認定についての内規を定め、規則の改訂を検討し、令和健康科学大学既修得単位認定内規を作成した。

3) 学力向上プログラム部会の継続

教務委員会にて学力向上プログラム部会の継続が承認され、学力向上プログラム部会の構成員を各学科より選出を行った。また、入学前プログラム、プレイスメントテスト、GPA の情報データの分析を行った。

4) 大学院開学に向けての準備

令和6年3月に文部科学省に対して設置認可の申請を実施し、令和6年8月に認可を得た。それに伴い教室の使用、各研究室・講義で必要となる備品の整理を進めた。

また、設置認可後、10月にオープン企画を実施した。

入学試験状況

コース名	志願者	合格者	入学者
実践看護学コース	13 名	6 名	6 名
看護学人材育成コース	4 名	4 名	4 名
心身機構支援コース	1 名	1 名	1 名
生活支援コース	1 名	1 名	1 名
計	19 名	12 名	12 名

計画（学生支援）

学生の成果外活動支援、経済支援を行うとともに、キャリア支援を推進する。

実施状況

学生生活の充実化・支援を図るため以下の方策を実施した。

1) 学生支援

学生の大学での生活においては、正課教育と共に正課外の生活が重要である。

本学では、学生委員会と学務課学生係が中心となって、正課外を含む学生支援活動を展開した。今年度は理学療法学科にて、新4年生の保護者を対象に ZOOM を利用した就職、卒業判定、国家試験大祭に関する説明会を行い、26名の申し込みがあった。

作業療法学科においても保護者懇談会を講義・個別面談で開催し、46名の方にご出席いただき、教育方針等を保護者と共有し連携を強化した。また、各学科にて定期的に面談を実施し、特に学習が滞っている学生・欠席が目立つ学生については都度面談を行った。

学生支援活動の詳細は、以下のとおりである。

(1) 学生指導

- ・学内・学外における禁酒禁煙、道路横断禁止に関する指導
- ・寮生活における共用部の使用ルールに関する指導
- ・更衣室内のロッカー施錠、後片付けに関する指導

(2) 学生課外活動に関すること

- ・体育館使用上の注意（備品の取り扱い、鍵の借用、休憩時間等の使用）
- ・サークル活動（新規サークルについて1件設立）
- ・学友会の設立
- ・大学祭の開催（令和6年10月12日 開催）

第3回の開催となる大学祭は「汎愛博施～そこに愛はある～」をテーマに、来場者参加型のイベントや、サークルによる屋台・キッチンカー出店、スペシャルゲストライブを企画した。

昨年に続き、多数の企業より協賛をいただき、地域住民の皆様や高校生、本学生と多くの方にご来場をいただいた。

(3) 学生への支援に関すること

奨学生数、および種別内訳は下記のとおりである。

学科（内訳）	令和6年度
看護学科	81名
給付	18名
第一種（無利子）	31名
第二種（有利子）	32名
理学療法学科	84名
給付	15名
第一種（無利子）	38名
第二種（有利子）	31名
作業療法学科	43名
給付	13名
第一種（無利子）	13名
第二種（有利子）	17名
総計	208名

本学独自の特待生数は以下のとおりである。

（授業料1/2免除）

学科（内訳）	1年生	2年生	3年生
看護学科	2名	6名	4名
理学療法学科	2名	6名	1名
作業療法学科	3名	0名	1名
計	7名	12名	6名

（授業料1/3免除）

学科（内訳）	1年生	2年生	3年生
看護学科	6名	2名	0名
理学療法学科	7名	0名	0名
作業療法学科	8名	0名	0名
計	21名	2名	0名

(4) 学生の福利厚生及び保健衛生に関すること

令和6年4月の障害者差別解消法の改正施行により、合理的配慮が義務化されることを受けて、規定を整備するとともに、対応のための体制を整備し、学生サポート室の設置、運営を開始した。

合理的配慮を希望し申請した学生した学生（のべ9名）に関し、障害学生支援連絡会議を招集し、個別の議論を行い配慮提供の内容を検討した。

(5) 国家試験対策について

次年度に本学最初の国家試験受験に向けて、各学科にて国家試験合格を目指し取り組みを行った。各学科にて外部模試を実施し、看護学科においては成績不振者の学生に対してはアドバイザーによる面談・指導を実施した。その他、必修問題に限定した学内基礎学力模試を2回実施し、成績については学生との面談に活用した。

4年次の国家試験対策スケジュールの立案、外部模試の申込、国家試験受験申込方法を確認し、引き続き各学科で検討を進めていく

(6) 健康支援センター学生相談活動

【利用件数一覧】（令和7年3月31日時点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総面接回数 利用人数	14回 8名 [7]	11回 7名 [2]	11回 6名 [2]	9回 3名 [1]	2回 2名	1回 1名	1回 1名 [1]	8回 6名 [4]	6回 3名	8回 3名	7回 4名 [2]	6回 3名
(内訳)												
学生	7名 [6]	7名 [2]	6名 [2]	3名 [1]	1名	1名	1名 [1]	4名 [2]	2名	2名	2名 [1]	1名
看護学科	2名 [1]	4名 [2]	3名 [2]	1名	1名	0名	1名 [1]	2名	2名	2名	1名	0名
1年生	1 [1]	1	1	0	1	0	1 [1]	2	2	2	1	0
2年生	1	3 [2]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理学療法 学科	1名 [1]	0名	1名 [1]	1名 [1]	0名	1名	0名	1名 [1]	0名	0名	1名 [1]	1名
1年生	1 [1]	0	0	1 [1]	0	1	0	0	0	0	0	0
2年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
作業療法 学科	4名 [4]	3名	2名	1名	1名	0名	0名	1名 [1]	0名	0名	0名	0名
1年生	3 [3]	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年生	1 [1]	0	0	0	0	0	0	1 [1]	0	0	0	0
教職員	1名 [1]	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名 [2]	1名	2名 [1]	2名 [1]	2名
紹介状等 作成	2件	0件	1件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	1件	1件

[]新規開始人数

(学生相談内容) 学業・進路・就職、対人関係、心理・性格・適応・不満、精神衛生・心身健康、経済問題、ハラスメント、性の問題

(7) その他

・新入生歓迎会

令和6年6月14日に、本法人理事長ならびに学友会設立準備委員会が主催で学生食堂、中庭を使用し、「新入生歓迎会」を開催した。

2) キャリア支援

学生自らが主体的に将来を選択し、実現へと導くことのできるキャリア及び就職支援を実施した。

(1) 低学年向けのキャリア就職支援講座ミライパスの実施

- ・オフィス関連講座、キャリア形成の重要な発信

(2) キャリア就職支援講座ミライパスの運用

- ・大学生の認知の向上施策の検討
- ・学生ニーズに合った講座の開講
- ・開講日数の増加

(3) 進学者向けの対策講座の実施

- ・小論文講座の充実

(4) キャリア面談の体制強化

- ・係員のキャリアに関する知識の習得
- ・キャリア面談に関する認知向上

(5) ニーズに合った学内就職イベントの実施

- ・大学と病院又は企業との交流
- ・学生のニーズに合った、合同就職説明会の実施

キャリア面談実績（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

相談項目	件数
進路について	39件
就活準備について	35件
履歴書・エントリーシート添削	31件
自己分析について	15件
インターンシップ	9件
その他	1件

令和6年度実績

ミライパス予算・実績/キャリア面談実績

講座名	実施日	定員	催 行	申 込	充足率	学科別			学年				受講数
						Ns	Pt	Ot	4年	3年	2年	1年	
看護学部生対象就活スタート講座	5月16日	86	15	70	81%	70	0	0	0	70	0	0	70
病院研究講座①講師：桑原	5月27日	5	2	2	40%	2	0	0	0	2	0	0	2
自己分析①講師：桑原	5月28日	5	2	2	40%	2	0	0	0	2	0	0	2
自己分析②講師：桑原	5月30日	5	2	3	60%	3	0	0	0	3	0	0	3
卒業後のキャリア[企業系]	6月10日	10	1	1	10%	0	1	0	0	1	0	0	1
ビジネスマナー講座①[延期]	6月13日	40	20	37	93%	32	5	0	0	35	0	2	0
リハ学部生対象就活スタート講座①	6月14日	25	15	24	96%	0	24	0	0	24	0	0	24
リハ学部生対象就活スタート講座②	6月17日	60	15	42	70%	0	36	6	0	42	0	0	36
ビジネスマナー講座②	6月26日	40	20	28	70%	25	3	0	0	23	0	0	22
病院研究講座③講師：桑原	6月26日	5	2	2	40%	0	2	0	0	2	0	0	2
メイクアップ講座	6月28日	30	20	20	67%	19	1	0	0	20	0	0	12
自己分析③講師：桑原	6月28日	5	1	1	20%	1	0	0	0	1	0	0	1
スーツ着こなし講座	7月2日	30	15	14	47%	11	0	0	0	11	0	0	11
病院研究講座②ナース専科	7月3日	20	15	2	10%	2	0	0	0	2	0	0	0
病院研究講座④講師：桑原	7月4日	5	2	4	80%	2	0	0	0	2	0	0	4
卒業後のキャリア[企業系]	7月5日	10	5	2	20%	0	0	2	0	1	0	1	1
自己PR文作成講座 講師：桑原	7月11日	10	5	7	70%	7	0	0	0	7	0	0	7
自己分析講座 講師：桑原	7月11日	6	2	2	33%	2	0	0	0	2	0	0	2
自己PR作成講座 講師：桑原	7月17日	3	1	0	0%	0	0	0	0	0	0	0	0
自己分析講座 講師：桑原	7月17日	6	2	0	0%	0	0	0	0	0	0	0	0
履歴書作成講座【ナース専科】	9月26日	20	10	29	145%	38	0	0	0	38	0	0	38
メイクアップ講座2	10月15日	20	10	1	5%	1	0	0	0	0	0	0	0
自己分析講座 講師：桑原	10月2日	5	2	2	40%	2	0	0	0	0	0	0	2
病院研究⑥ 講師：桑原	11月18日	5	1	1	20%	0	1	0	0	0	0	0	1
自己PR作成講座 講師：桑原	11月27日	1	1	1	100%	1	0	0	1	0	0	0	1
面接対策講座	12月23日	30	10	16	53%	16	0	0	0	16	0	0	16
面接対策講座	12月24日	30	10	10	33%	6	1	0	0	7	0	0	6
コミュニケーション能力講座	1月9日	20	5	3	15%	1	0	2	0	3	0	0	3
履歴書作成講座（基礎）	2月7日	40	20	2	5%	0	1	0	0	1	0	0	1
面接対策講座（麻生）	2月7日	30	10	3	10%	0	3	0	0	3	0	0	3
面接対策講座（若者支援）	2月14日	10	5	7	70%	0	5	0	0	5	0	0	5
面接対策講座（麻生）	2月14日	30	10	2	7%	1	0	0	0	1	0	0	1
履歴書作成講座（基礎）	2月25日	40	20	3	8%	2	0	0	0	2	0	0	2
履歴書作成対策講座（応用）	2月25日	20	10	10	50%	9	0	0	0	9	0	0	9
履歴書作成対策講座（応用）	3月4日	20	10	11	55%	10	0	0	0	10	0	0	10
小論文対策講座	3月10日	20	15	21	105%	19	0	0	0	19	0	0	19
小論文対策講座	3月17日	20	15	20	100%	13	0	0	0	0	0	0	13
自己PR作成講座 講師：桑原	3月18日	2	2	2	100%	2	0	0	0	0	0	0	2

令和6年度実績
ミライパス予算・実績/キャリア面談実績

※ は、外部講師による講座

	講座名	開講 予定 回数	開講日	開講 回数	開講率	予算	支払額	残高	備考
1	就活スタート講座	6	5/16,6/14,6/17	3	50%	0	0	0	
2	面接対策講座	4	12/23,12/24,2/7,2/14	4	100%	118,800	116,380	2,420	
3	グループディスカッション 対策講座	3		0	0%	0	0	0	
4	ビジネスマナー講座	1	6/26	1	100%	118,800	29,810	88,990	
5	小論文対策講座	1	3/10,3/17	2	200%	0	114,400	-114,400	
6	求人の見方講座	3		0	0%	0	0	0	
7	履歴書（基礎編）講座	4	9/26,2/7,2/25	3	75%	118,800	57,200	61,600	
8	履歴書（応用編）講座	2	2/25,3/4	2	100%	41,800	31,295	10,505	
9	メイクアップ講座	1	6/28,10/15	2	200%	46,200	0	46,200	
10	身だしなみ講座	1	7/2	1	100%	0	0	0	
11	病院企業研究	6	5/27,6/26,7/3,7/4,11/18	5	83%	0	0	0	
12	自己分析講座	3	5/28,5/30,6/28,7/11,7/17, 10/2	6	200%	0	0	0	
13	ロジカルシンキングゲーム講座	1		0	0%	0	0	0	自己分析講座に含む
14	人生ゲーム講座	1		0	0%	0	0	0	自己分析講座に含む
15	キャリアビジョン講座	5		0	0%	0	0	0	自己分析講座に含む
16	SPI講座	1		0	0%	104,500	0	104,500	
17	模擬面接実践(若者支援)	1	2/14	1	100%	0	0	0	
18	コミュニケーション講座	2	1/9	1	50%	62,700	42,790	19,910	
19	プレゼン能力向上	1		0	0%	111,100	0	111,100	
20	Word講座	1		0	0%	75,900	0	75,900	
21	Excel講座	1		0	0%	75,900	0	75,900	
22	PowerPoint講座	1		0	0%	75,900	0	75,900	
23	自己PR作成講座	/	7/11,7/17,11/27,3/18	4	/	0	0	0	
24	卒業後のキャリア（企業系）	1	7/5	1	100%	0	0	0	
						950,400	391,875	558,525	

2. 研究

計画

教員個々の研究基盤を確立し、学内での共同研究を推進するとともに、学外との研究連携を企画発展させる。

実施状況

本学が、将来にわたり高度な教育研究を維持し、健康科学全般の実践的研究を推進するため、科学研究費補助金の獲得等を支援するとともに、学外機関との共同研究推進を進めた。

また、全教員に対する個人研究費の配分に加え、大学支援研究費による外部資金獲得のための取り組みを推進させた。さらに、研究委員会 FD 研修を実施し研究倫理について、法令遵守にとどまらず倫理的な判断と行動を学ぶ機会とした。

その他、引き続き FD・SD 活動として、2 年ごとに教員、事務担当者を対象に、一般財団法人 公正研究推進協会の e-ラーニングの受講を行った。

1) 科学研究費補助金（科研費）の採択状況

本学が標榜する健康科学に関する個々の教員の研究課題を推進する観点より、科研費の獲得を目指した。科研費への効果的な申請を支援するために、外部資金獲得支援のための動画講座を導入した。

令和 6 年度の採択状況は、以下のとおりである。

学部	新規	左記内訳	継続	左記内訳	科研費獲得額
看護学部	代表 0 件 分担 5 件	基盤 C 5 件	代表 11 件 分担 20 件	基盤 B 3 件 基盤 C 26 件 若手 1 件 研究スタート 1 件	直接経費 24,798,428 円 間接経費 7,096,500 円
リハビリテーション学部	代表 5 件 分担 7 件	基盤 C 10 件 若手 2 件	代表 7 件 分担 7 件	基盤 C 9 件 若手 4 件 挑戦的萌芽研究 1 件	

2) その他の外部資金助成について

機関	研究種目	学部	直接経費	間接経費
国立研究開発法人 エネルギー・産業 技術総合開発機構	受託研究（継続）	リハビリテーション学部	13,077,000 円	3,923,000 円
公益社団法人 JKA	研究寄附金（新規）	リハビリテーション学部	11,011,000 円	0 円
日本作業療法 教育学会	研究寄附金（新規）	リハビリテーション学部	50,000 円	0 円
日本緩和医療学科	研究寄附金（新規）	リハビリテーション学部	2,098,000 円	0 円

3. 地域連携・社会貢献

国内外の大学等や地域との連携を進める活動を推進する。また、他大学、他機関との共同研究等の連携を進める。

実施状況

本学を取り巻く自治体、地域及び他の教育機関等との連携を図った。

1) 福岡未来創造プラットフォームの企画

2025年2月15日に本学にて講座を開講した。講座担当教員についてはリハビリテーション学部 作業療法学科 田中 悟郎 教授が担当され、「こころの元気を回復するために」をテーマに参加した学生を含めグループディスカッションが行われた。西南学院大学、福岡工業大学より計4名の学生が参加した。

2) アビスパ福岡の社会課題解決を目的とした「シャレンパートナー」と契約の締結

リハビリテーション学部作業療法学科とアビスパ福岡と「シャレンパートナー」契約を締結した。今後、作業療法学科 教員ならびに学生が研究・課外活動を行っていく際に連携して取り組みを進めた。その結果、11回の活動を行い、延べ学生123名、教員26名が参加した。

3) 福岡工業大学との協定

大学共通テスト利用選抜の実施にあたり、福岡工業大学と共同実施する形態をとる旨の協定を、福岡工業大学と締結し、3年目にあたる。

4. 組織運営

計画

学長のリーダーシップのもと、教授会、各種委員会等において、大学を取り巻く諸課題の解決に取り組むとともに、大学院設置に向けた具体的な準備を進め、令和7年4月開学を目指す。

実施状況

1) 大学運営会議

本学の運営に関する重要事項を審議するとともに、法人との連携を深めるために、計23回の大学運営会議を学長の主導により開催した。議題一覧は下記の通りである。

回数	開催日	事項	議 題
1	4月18日	審議	・休学中の学生健康診断の取り扱いについて ・リハビリテーション学部教員の補充（欠員補充）について ・看護学部の教員公募（採用）について
		報告	・本学英文パンフレットの制作について ・大学評価委員会及び教員配置の検討について ・令和6年度 入試状況ならびに学生数について ・九州の私立大学作業療法学科・専攻7校の入学者数について ・令和5年度 設置計画履行状況等調査の結果について
2	5月2日	審議	・本学入学者選抜規則の改正について ・認証評価機関の選定等について

回数	開催日	事項	議 題
		報告	・ 教具管理について ・ JR 品川駅看板広告更新について ・ 恩城医療財団グループ訪問について ・ 学生ロッカー設置場所について ・ 令和 6 年度 新入生歓迎食事会について
3	5 月 16 日	審議	・ 合理的配慮について ・ 学生委員会規程（案）について ・ 令和 6 年度 特待生について確認 ・ 大学評価プロジェクトチームの設置について ・ 生成 AI 利活用ガイドラインについて
		報告	・ 令和 5 年度 事業報告書について ・ 恩城医療財団の訪問について ・ 在学生および新入生アンケートの集計結果について ・ 「献血のご案内」について
4	6 月 6 日	審議	・ AI 利用ガイドライン（学生用と一般用）の周知徹底 ・ 看護学部 看護学科 小児看護学領域 教員公募について ・ 大学支援研究費の審査結果ならびに配分額の案について
		報告	・ Research map の入力、公表義務付けについて ・ 高雄医科大学研修団の来学について ・ 令和 6 年第 1 回 AC 教員審査結果について ・ 客員研究員の履歴書提出について ・ 大学院設置についての意見伝達結果等の報告について ・ 学籍異動について ・ 令和 7 年度入学者選抜 一般選抜（前期）試験における 地方試験会場の選定について ・ 令和 7 年度入学者選抜 学校推薦型選抜（指定校）について
5	流会		
6	7 月 4 日	審議	・ 学内就職イベントについて
		報告	・ 学籍異動について ・ 令愛祭について ・ 令和 5 年度事業活動収支計算書 決算報告 ・ 釜山カトリック大学訪問スケジュールについて ・ 令和 7 年度入学者選抜における感染対策について
7	7 月 18 日	審議	・ メンタル不調の学生のスクリーニング実施計画案 ・ 合理的配慮について ・ 学生ロッカー刷新企画について
		報告	・ 大学院の組織について ・ サークル団体施設使用場所について
8	8 月 1 日	審議	・ 大学院オープンキャンパス企画（案）について
		報告	・ 学籍異動について ・ 作業療法学科 教員採用人事について ・ 理学療法学科 教員採用人事について ・ 令和 6 年度 ストレスチェックの実施について ・ 教職員ポータルサイトの開設について
9	8 月 22 日	審議	・ 教員人事体制検討タスクフォースの検討について
		報告	・ 大学祭活動報告 ・ 大学院設置準備状況報告 ・ 令和 6 年第 2 回 AC 教員審査の結果について
10	9 月 5 日	審議	・ 令和 6 年度公的研究費の内部監査の実施について ・ 教員人事体制検討タスクフォースの検討について
		報告	・ 大学院設置認可について

回数	開催日	事項	議 題
11	9 月 19 日	審議	・看護学部対象合同就職説明会の実施について
		報告	・学籍異動について ・令愛祭について ・令和 6 年度 公的研究費の内部監査実施報告について ・2026（令和 8）年度入学者選抜日程について ・令和 6 年度 前期成績判定について
12	10 月 3 日	報告	・恩城医療財団視察研修について ・令愛祭進捗報告について ・大学院開設の準備状況について
13	10 月 25 日	報告	・令和 7 年度総合型選抜入試の入試判定について ・学籍異動について
14	11 月 7 日	審議	・教員の内部昇格人事に関する手続きについて ・看護学部 教員の内部昇格人事について ・IR 推進室要項について
		報告	・大学院入学試験への出願の事前相談について ・大学院入学試験への出願状況について
15	11 月 21 日	審議	・検定料、入学科及び校納金等に関する規則の改正について ・講師以上の再任審査用基準表について ・看護学部教員人事選考結果について ・看護学部内部昇格者について ・内部質保証推進要項について ・大学評価委員会規程の改正について
		報告	・第 3 回 AC 教員審査の結果について ・学部入学試験の現状について ・大学院入学試験への出願状況について
16	11 月 29 日	審議	・令和 7 年度学校推薦型選抜（指定校・公募制）入試判定について
17	12 月 18 日	審議	・大学図書館利用規程の改正について ・看護学部教員人事選考について
		報告	・2 号館エレベーター（2 基側）掲示内容について
18	1 月 16 日	審議	・障害学生支援規程の改訂及びそれに付随する規程の制定について ・基幹分野で本学教員が関与していない科目に学内科目責任者を置くことについて ・全学シミュレーションセンター案について ・老年看護学教授採用について ・【個人研究費】教員が離職する際の物品等の取扱い規定の改定について
		報告	・学部入学試験における一般選抜（前期日程）ならびに共通テスト利用選抜への出願状況について ・令和 7 年度・大学院入学試験の第 1 次募集合格者について ・令和 7 年度入学式・卒業式（仮称）の日程について
19	2 月 7 日	審議	・令和 7 年度事業計画（案）について ・令和 7 年度予算（案）について ・令和 7 年度一般選抜（後期Ⅱ）について
		報告	・令和 7 年度一般選抜前期ならびに共通テスト利用選抜の入試判定について ・令和 8 年度新入生用 iPad について ・大学院教育に関する教員への手当について ・大学院の院生教室使用について ・作業療法学科の定員変更について
20	2 月 20 日	審議	・ICT 教育に関連した申し合わせ事項 ・情報セキュリティに関する誓約書 ・看護学部内部昇格人事について ・基幹分野における授業科目の運営について

回数	開催日	事項	議 題
		報告	・一般選抜(前期)入試における選択科目の事前登録制について ・令和8年度一般選抜(前期)入試A日程の地方会場について ・令和7年度(2025年度)学年暦(案)について ・令和7年度大学運営会議の日程(案)について ・大学経営状況の報告について
21	3月6日	審議	・マヒドン大学(タイ王国)理学療法学科学生(2名)短期研修受入れについて ・看護学部 内部昇格者について
		報告	・令和7年度一般選抜後期 入試判定について ・令和7年度 後期成績判定について ・学籍異動について ・大学院2次募集合格者について ・科研費の採択状況について
22	3月24日	審議	・作業療法学科定員変更に伴う特待生人数について
		報告	・令和7年度事業計画について ・令和7年度予算について ・作業療法学科 定員変更について ・令和6年度 設置計画履行状況等調査の結果について
23	3月27日	審議	・令和7年度リハビリテーション学部理学療法学科体制について
		報告	・入学試験委員会より報告 ・令和7年度新入生歓迎会について

2) 委員会活動

各々の課題について審議を行い、大学運営会議の審議を経て実施した。
また、推進室規程の整備を行い、IRと国際に関する支援室の設置を行った。

3) FD・SD活動

本学の教育研究の質の向上を図り、また課題の解決を図るために、様々な研修会が企画、運営された。
実施状況は、下記の通りである。

<全学FD/SD>

開催主体	事務部 総務課 総務係	学長	事務部 総務課 総務係	学校法人巨樹の会
開催日時	4月10日(月) 10:00～11:00	4月10日(水)～ 9月18日(水) 毎週水曜 8:30～8:45	4月8日(月)～ 5月31日(金)	7月31日(水) 13:30～15:00 8月5日(月) 13:30～15:00
目的	学長挨拶、教員紹介、新入教職員辞令交付、教員オリエンテーション(カマチグループ紹介、事務組織、教務係・総務係からの連絡、研究費、倫理関係)。大学への帰属意識や教員団の一員としての自覚を醸成し教育研究力の向上を図った。	全教職員に対し、学長より訓示、教員挨拶、連絡事項等を共有し連携を図る	研究倫理に関する知識の理解度向上	GoogleWorkspace 活用法の習得
外部・内部				

所属・講師				
実施方法	対面	対面	e ラーニング	オンライン
参加人数	新入教員 11 名、 新入事務職員 1 名	90 名程度	教員 60 名 事務職員 8 名	49 名

開催主体	研究委員会	事務部企画室	情報管理委員会	FD/SD 委員会
開催日時	8 月 28 日(水) 15:30-17:00	10 月 28 日(月)～ 10 月 29 日(火) 各日 1 時間	2 月 6 日(木)～ 3 月 10 日(月)	2 月 17 日(月) 9:30-12:30
目的	テーマ： 「看護・リハビリテ- ーション領域に必要な 臨床倫理」	大学職員としての 能力開発及びキャ- リア形成を図る	情報セキュリティに 関する知識を向上さ せるとともに、学生 への指導の充実に 図る	テーマ： 「ティーチング・ポ- トフォリオ・チャ- ートの作成」
外部・内部 所属・講師	<外部> 講師：医学部医学系 研究科脳神経内科学 分野 國枝 顕二郎 併任講師	<内部> 本学学務課キャリ- ア支援係 桑原優斗 副主任		”<内部> 本学看護学部看護学 科 竹元仁美 学科長・教授”
実施方法	オンライン	対面	オンデマンド	対面および録画
参加人数	33 名	19 名	教員 39 名 事務職員 8 名	35 名程度

開催主体	FD/SD 委員会
開催日時	3 月 11 日(火) 15:30-16:30
目的	テーマ： 「発達障害の特性のある 大学生への支援」
外部・内部 所属・講師	<外部> 九州大学 基幹教育院 自然科学実験系部門 吉田ゆり教授
実施方法	対面および録画
参加人数	63 名

<看護学部 看護学科 FD>

	第 1 回
名称	看護師国家試験対策ガイダンス
担当	臨床シミュレーションセンター長 増山純二 教授
対象	看護学科教員
開催主催	看護学科国家試験対策委員会
開催期間	3 月 13 日(木) 9:00-10:30
目的	看護国試専門予備校大手のさわ研究所による学生向けの看護師国家試験に対する学習の進め方、必修・一般問題の違いや特性、模試の結果の見方などのガイダンスであるが、教員も聴講し最新の内容を理解することで、より効果的な学生への学習支援に繋げる。

実施方法	対面および録画
外部・内部 所属・講師	看護国試専門予備校 株式会社さわ研究所 企画営業部 西日本担当 副部長 松村 晋昭 氏
参加人数	24 名

<リハビリテーション学部 理学療法学科 FD>

	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
名称	基礎力リサーチテストの結果報告会	Teams の活用法	基礎学力データ（入学時スキルテスト・GPA）の分析	国家試験対策の方策
担当		齊藤貴文 講師	齊藤貴文 講師	国家試験対策係
対象	理学療法学科教員	理学療法学科教員	理学療法学科教員	理学療法学科
開催主催	理学療法学科	理学療法学科	理学療法学科	
開催期間	5 月 16 日（木）	6 月 16 日（日）	11 月 14 日（木）	1 月 30 日（木）
目的	基礎力リサーチテストの結果の見方を理解し、学生指導に役立てるため。	Teams の活用法を理解し、学生との情報伝達ツールとして役立てるため。	1 年次の基礎学力背景データを参照し、GPA や休退学者数の比較をおこなうことで、今後の学生指導に役立てるため。	国家試験対策に関する討論会を通し、学生の成績を向上させるための方針を検討するため。
実施方法	講義・ディスカッション	講義・演習	講義・ディスカッション	講義・ディスカッション
外部・内部 所属・講師	アド専門学校・短期大学事業 与田 翼 氏	理学療法学科 齊藤貴文 講師	理学療法学科 齊藤貴文 講師	
参加人数	17 名	16 名	15 名	15 名

<リハビリテーション学部 作業療法学科 FD>

	第 1 回	第 2 回
名称	作業療法の社会的認知度の現状と課題	産学連携推進会議
担当	広報担当 奥田、時吉、北村	作業療法学科教員
対象	作業療法学科教員	作業療法学科教員 臨床実習指導者
開催主催	作業療法学科	作業療法学科
開催期間	5 月 2 日（木）	12 月 7 日（土）
目的	作業療法の社会的認知度の現状と課題を明確にし、今後の広報戦略について討論及び共有を行う。	教育効果を向上するために、本学教員と臨床実習指導者が臨床実習の内容等について討論及び共有し連携を強化する。
実施方法	講義・討論	講演・シンポジウム・他
外部・内部 所属・講師		外部講師 劉 OTR（新吉塚病院） 甲斐 OTR（福岡和白病院）
参加人数	13 名	学内：14 名 外部：37 名

5. 施設整備

計画

大学の施設整備の点検を不断に行い、教育研究環境を維持し、大学院開設に向けた環境整備を行う

実施状況

1) 学生女子ロッカー室の移転、整備

学生アンケートの結果に基づき、現在、1号館2階に完備されていた学生女子ロッカー室について、学生数の増加に伴い、通路が狭く・収容人数が足りない状況であるため、1号館3階への移転・工事を実施した。また、1号館2階のロッカー室跡地については、学習スペース、もしくは学生の休憩スペースで活用できる空間づくりのため検討を進めている。

2) 大学院開学にともなう、研究室・講義備品の整備

令和7年4月の開学にむけて、学部との講義室の使用方法について検討を進め、共有部分として使用する箇所、大学院の占有として使用していく講義室(主に1号館5階、6階)を決定した。また、併せて講義で使用していく備品、研究室内の環境整備を進めた。備品等の購入にあたっては必要に応じて、各補助金の申請を行った。

3) 1号館の空調機修理工事

昨年度に引き続き、1号館の空調機の経年劣化に伴い、部品交換・修理工事を行った。1号館は設立され20年以上経つため、今後、空調だけではなく、映像機器、トイレ等の修繕工事の実施を計画している。

6. 財務基盤

計画

学生確保のため、学生募集に関する広報を実施するとともに、効率的な経費支出に努める。

実施状況

1) 募集活動・募集活動の充実

今年度は数値目標を設定し、定員充足・偏差値の向上を目指す活動の実施を目標に募集活動を行った。進学ガイダンスについては学外活動では受験生との接触の機会でありイベント集客への動員施策を練り、オープンキャンパスについては動員数・受験移行率の目標達成に繋げていった。

広報活動においてはより多くの対象者への認知を目標に年間通じた幅広い告知活動を徹底した。高校訪問時には高校との信頼関係構築を目的に九州全域の高校を対象に訪問を実施した。情報発信として、大学案内パンフレットの配布、ホームページ・進路情報サイトへの掲載・更新による更なる認知を行った。

今後は、募集・広報活動の適正化のための根拠設定として、周知・認知・集客等の活動の数値化における現状の把握と今後対策課題を検討していく。

オープンキャンパス参加者数

開催月	オープンキャンパス	参加者数	月間参加者数
6月	入試説明会	123名	123名
7月	オープンキャンパス（選択探究編）	69名	285名
	オープンキャンパス（大学探究編）AM	134名	
	オープンキャンパス（大学探究編）PM	82名	
8月	オープンキャンパス（将来探究編）AM	126名	228名
	オープンキャンパス（将来探究編）PM	96名	
	オンライン（作業療法学科）	2名	
	オンライン（理学療法学科）	3名	
	オンライン（看護学科）	1名	
9月	オープンキャンパス（受験探究編）AM	139名	191名
	オープンキャンパス（受験探究編）PM	52名	
12月	オープンキャンパス（受験探究編）AM	73名	73名
3月	医療職進路 FESTA	112名	112名

高校教員対象説明会の実施について

開催日	6月12日（水） 対面	6月14日（金） WEB	6月27日（木） 対面
参加人数	23名	25名	24名

2) 入試状況

令和6年度入学生の、入試状況等は以下のとおりである。

学 科	志願者	合格者	入学者
看護学科	230名	122名	86名
理学療法学科	151名	116名	88名
作業療法学科	58名	52名	39名
計	439名	290名	213名

3) 経費の効率化

引き続き経費の効率化を図るため、予算の執行状況、予算外経費を把握することに務めた。昨年同様予算どおりに経費を執行するのが難しいのが実情ではあったが、予算実行を分析することにより今後の予算策定のプロセスを考慮することができた。

7. その他

1) 国際関連に関する取り組み

IAO (International Affairs Office) の設立

今年度、新たに IAO (International Affairs Office) の設立を行い、学生・教職員の国際留学、交流において、国際化推進委員会と連携して取り組んだ。

(1) 東西大学校（韓国）との基本合意書（MOU）締結

2024 年 4 月 3 日に本学にて基本合意書（MOU）の締結を行った。

(2) 恩城（ウンソン）医療財団グループ（韓国）の本学訪問

2024 年 4 月 28 日、2024 年 7 月 9 日、2024 年 12 月 11 日と 3 回にわたって、本学への訪問、意見交換会を実施した。

(3) 高雄医科大学（台湾）の相互訪問

2024 年 4 月に本学より、高雄医科大学へ現地視察・訪問を行い、6 月に本学への訪問・意見交換会・研修・施設見学を実施した。

(4) 釜山カトリック大学校（韓国）の本学訪問、基本合意書（MOU）締結

2024 年 7 月 11 日に本学への訪問、意見交換会を実施した。また同日に両大学の人材育成、学術交流、国際学習のためのパートナーシップを締結した。

(5) 東儀大学（韓国）と基本合意書（MOU）締結

2024 年 12 月 16 日に現地、東儀大学へ訪問し、基本合意書（MOU）の締結を行った。

2) 内部質保証に関する取り組み

来年度完成年度を迎え、また、令和 10 年度の認証評価機構の受審にむけて、内部質保証等の規程・整備を行うためのプロジェクトチームを設立した。

プロジェクトチーム内では、受審する認証評価機構の選定し「日本高等教育評価機構」の認証評価を受審することとし、大学運営会議にて承認された。

そのほか、受審までのスケジュールの確認、内部質保証推進要項の制定を行い、大学評価委員会へ改組を行った。令和 7 年度は推進要項に沿って、内部質保証、自己点検・評価を行っていく。

3) 教員の再任審査に関する取り組み

来年度開学年度を迎えるにあたり、助教の教員については「4 年」の任期となっており、開学年度に入職された教員の再任審査について課題があった。

課題解決にむけ、各学科教員と事務担当者によるタスクフォースを設立し、課題の検討・解決に取り組んだ。

各学科の採用時の選考基準を整理し、再任審査の際の審査基準を一覧にまとめ、再任審査を行ううえでの方針を確認した。その他、再任審査に関する規程の作成、対象教員の確認、審査手順・スケジュールの作成を行った。

令和 7 年度は対象教員の規程に沿って再任審査を適切に行っていく。

4) 臨床シミュレーションセンターの活動

臨床実践力を向上させるため、学部生のシミュレーション教育に関連した学習や教材、医療技術、コース開発を支援し、地域に根ざした医療従事者を育成することを目標に、臨床実践力を向上させるため、医療スタッフへの研修のシミュレーション教育に関連した学習や教材、医療技術、コース開発を支援し、地域に根ざした医療従事者の育成支援、シミュレーション教育に関わる研究の質の向上を図り、令和健康科学大学の教育イノベーションを支援した。

(1) 学部生のセンター利用について

- ・看護学科：1439 名利用(延べ数)
小児看護学演習、老年看護学演習、成人看護学慢性期演習、看護臨床推論、精神看護学演習、母性看護学演習、在宅看護学演習、診療に伴う援助技術、ヘルスアセスメント、基礎看護過程実習、地域看護学演習
- ・理学療法学科：68 名
呼吸器系理学療法学
作業療法学科 123 名
身体機能作業療法学、日常生活支援学演習

(2) 福岡和白病院院内研修と学外医療者のスタッフ利用について

利用者数：678 名（9 月までの利用者延べ数）
福岡和白病院（4-12 月まで毎月の利用）588 名
日本救急看護学会主催の研修（救急初療看護コース；8/3, 4）30 名
京都科学主催 シミュレーション教育研修 60 名
福岡医師会研修会

(3) センター主催の患者急変対応研修

利用者数：185 名
関連病院研修（毎週火曜日午後開催）：（2024 年 12 月 177 名修了）
地域病院向け研修（2024 年 12 月 8 名修了）

～信頼され選ばれる学校作り～

1. 学校教育力の向上

令和6年度は149名が卒業し卒業時の学生満足度は概ね良好であった。第60回の国家試験合格率は理学療法学科91.3%（全国新卒95.2%）作業療法学科100%（全国新卒92.5%）であった。理学療法学科1名は国家試験当日も心身不調により受験に至らなかった。理学療法学科の国家試験対策では登校困難な学生も数名認め、成績は模擬試験の段階も姉妹校の中では最下位であり伸び悩みも続いた。教職員が一丸となって対策に臨んでいたが学習支援以外の部分でも指導に時間を割いたことは今後の課題である。また改めて基礎学力強化が重要であることを痛感している。

令和6年度から基礎学力向上を目的に1年生へ学習アプリを導入したが学生の取り組み状況に差があるため、改めて職員間でのアプリ説明を行って活用促しに努めていく。

2. 学生支援力の向上

令和6年度の進級率は全体として96.7%退学者は2.9%（12名/413名）であった。進級率は概ね良好であるが、1年次の退学者数が多かったため早期からの職業理解を促し目的意識を明確にしていく必要がある。

メンタル不調の学生に対してはスクールカウンセラーにも対応してもらっているが、現在は利用者が少ない状況で経過している。

教員が研修会に参加しているが、教育に関するものが主となっており専門職としての自己研鑽の必要性も認める。

3. 地域貢献・社会貢献

中学校、高等学校への人材派遣（部活動支援や職業体験）や市民センター、地域サロンなどへ地域貢献活動を実施した。学生もボランティアとして活動に参加することで地域貢献の精神を養うことにつながっている。新規依頼のあった活動も引き続き対応していき定期的な活動へと広げていきたい。

11月末に20周年記念式典を開催し、在校生対象の講演会および祝賀会（約80名の参加）は盛況に終わった。卒業生の活躍を知ることができ、在校生に向けての激励と

なった。また寄稿文や式典参加など多くの卒業生に協力してもらい、改めて社会貢献の職業人を輩出している使命を確認した。

4. 組織運営システムの体制強化について

新しい職員が加わり役職数も増加したが定期的な会議により情報伝達体制を構築していった。しかし業務分担が明文化されていない部分も一部存在し、退職者や休職に伴う役割分担も発生したため引き続き体制整備が必要である。令和 7 年度はより情報共有しやすいように教員室の席配置を修正する。

5. 教育環境の整備

講堂の机やいすの買い替え、新しい教材の購入、ブラインドからカーテンへの変更などの予定していた整備に加えて空調の故障などが頻回に生じたため修理を要した。最新機器に関しては授業のみならずオープンキャンパスでも活用している。

臨床実習については、新規実習施設も追加した。

学生寮や送迎バスについても学生の安全を考慮しながら随時対応している。今後は女子寮の整備についても検討が必要となる。

修学支援制度は高等教育修学支援新制度や専門実践教育訓練給付金（社会人対象）の認定など対応できている。

6. 安定した財務基盤の維持

令和 7 年度の新入生は理学療法学科昼間コース 75 名、作業療法学科 44 名、合計 119 名となった。定員にはわずかに満たなかったがここ数年の定員充足率に大きな変化はなく、財政状況は安定している。

高校訪問やガイダンスの参加などに加えて、SNS を活用して学校情報の配信に努めた。オープンキャンパスでは在校生の協力により学生目線での情報発信をしてくれたため参加満足度は高かった。年度末までに OC 385 名参加（目標の 91.7%）歩留まり 42.7%

入試もすべて WEB 出願となったが大きなトラブルもなく終了した。

施設整備に必要な予算については優先度を考えて次年度以降対応していく。

下関看護リハビリテーション学校

信頼され、選ばれる学校

学生の学力強化と ICT 教育、多職種連携教育(IPE)の強化

～ ひとりひとりを大切にしながら ～

1. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進

(1) 両学科協力 IPE の充実

・看護学科

新カリキュラム開始以降、1年次には「専門職連携教育Ⅰ」として専門職連携の基礎を学び、2年次では「専門職連携教育Ⅱ」として専門職連携の構築を、3年次は授業科目ではないが、各学年の学習進度や学習経験に応じて学びを積み重ねることができるように、教育内容の順序性を踏まえた合同演習を実施。学びを蓄積することで、最終学年では、対象の健康や生活を守る医療の提供に向けて、お互いの職種の専門性を活かしながら、対象の目標達成、問題解決に向けてより良い方法を検討するカンファレンスを実施できている。就職後の多職種連携・協働に活かす学びとなっていると考える。

・理学療法学科

各学年で後期に実施。多職種の役割について学ぶことができる。各学年でテーマを決めており、多職種の仕事の理解、連携しての患者介入、カンファレンスなどを実施。実習や卒後に向けた学習に役立っていると考ええる。

(2) シミュレーション教育の充実

・看護学科

1、2年生では、基礎看護技術の学習や専門領域の演習など各学年の学習進度や既習知識に応じた学習内容でシミュレーションを実施している。3年生は各実習目的や目標に応じた学習内容を検討し、教員全員で協力しながらシミュレーションを実施している。また、高機能シミュレーターを継続リースすることで、シミュレーションを円滑に実施できている。

2. 学生満足度向上に向けた取り組み

(1) 教員の教育力向上

・看護学科

学内でのシミュレーションや日々の学習習慣の定着に向けた取り組みなど、学生の学修に創意工夫することが出来た。それを評価し、学科会議で、教員全員で検討することで、教育の質の向上につながっている。

法人主催で開催される中央研修や、対面やハイブリッドで開催される学会や研修会にも各教員が参加し、日々の教育に活用している。

・理学療法学科

シラバスを半期ごとに見直し、国家試験及び臨床内容に即したものにしている。また、教員相互の講義評価を実施し、意見交換の場を設けている。

法人で開催される教育に関する研修会には全教員が参加している。また、学会等についても、ほとんどの教員が複数回参加し、学科会議等にて学会報告会を実施することで、各分野の最新情報を共有している。

(2) 教育教材の充実

・看護学科

今年度も継続して高機能シミュレーターをレンタルし、学内シミュレーションや看護技術の講義や演習、実習の代替としても有効に活用している。新カリキュラム「情報リテラシー」での電子カルテ利用方法の演習や、シミュレーションを充実させるために事例展開（電子カルテ）できるアプリを購入して活用している。e-ナーstreiner（アプリ）を継続購入することで、動画やテキストを自由に使用できる学習のしやすさを提供した。

・理学療法学科

今年度、高額な教材や機器は購入していないが、故障や不備のあった教材については、適切に管理され、修理または補充している。開校から 20 年が経過しており、古くなった教材や機器類については、適宜検討していく。

(3) 進路（就職）支援の強化（理学療法学科）

3～4 月にかけて、お仕事サポートセンター職員による「履歴書の書き方」「面接での注意点」、青山商事職員による「スーツ着こなし講座」を実施した。

6 月には合同就職説明会（令和健康科学大学）を対面で開催し、144 施設（前年 190 施設）のご参加をいただいた。また、8 月には本校にて対面での就職説明会を開催し、18 施設（前年 81 施設）のご参加をいただいた。※今年度は、和白校の閉校に伴い、卒業生数が減少したこと、案内郵送先を少なくしたため、参加施設が減少している。

担任、就職委員を中心に、学生の就職活動状況の把握に努め、学科内での情報共有が十分に図られた。また、面接指導や履歴書指導・添削もシステム化するなど、昨年から改善がなされた。それらにより、学生の動きを促すことができ、内定状況は例年よりも高い数字となっている。

次年度は 12 月までに内定率 100%が達成できるよう学生への促しを積極的に行う。

(4) 学校および学生寮の施設・設備の改善

昨年度、外壁の補修および塗装、屋上の防水シートの全補修を実施したため、今年度は大きな改善が必要な箇所はなかった。

毎年であるが、学校および学生寮については、年度末に補修が必要な箇所を点検し、修理を実施している。

次年度以降も、エアコン交換、床材の張替えなど、開校して 20 年を迎えるため、様々な箇所の補修や全面改修などを検討していく。

3. 研究

(1) 教育関連の研究および関連病院と連携した研究の促進

・看護学科

新カリキュラムとして重要な地域・在宅看護に関しても、様々な工夫を行い実践に生かしており、地域看護に関する研究が 1 稿全国誌に掲載された。関連病院との連携した研究には至っておらず、今後の課題である。

1	タイトル：「地域看護」の教育効果を考えるー地域に根ざした看護教育を目指して看護展望, Vo50, No. 4, p 24-28, メジカルフレンド社, 2025 執筆者：田中 亜紀子, 小林 愛, 堀 純子, 鮫島 陽子
---	---

- ・理学療法学科

現在、本校職員が下関リハビリテーション病院または新小文字病院の理学療法士との共同研究うい実施している。また、1 名が大学院修士後期課程に在籍しており、研究活動を実施している。

更に、本校職員が全国学会にて発表を実施した。

1	学会名：第 10 回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会 演題名：高齢脊椎椎体骨折患者におけるサルコペニアと位相角の関連について 発表者：渡邊 一也
---	--

4. ICT 環境の運用

(1) ICT 教育力の向上

- ・看護学科

アプリを活用し、プレゼンテーションを行ったり、情報共有したり、電子テキストを用い教育している。また、シミュレーションで看護技術の実施状況を動画撮影し、振り返りに活用するなど、教員はもちろん学生たちも自主的に活用している。看護研究の時間に文献検索方法を学び、また情報リテラシーで SNS 活用方法を学んだ。また、オンラインでの授業もタブレットを用いて、実施している。国家試験対策として、アプリを用いて試験問題を解き、自分なりに解答を導き出すように指導している。正答率や取り組み状況など確認しながら指導を行っている。

- ・理学療法学科

昨年度までの、教育用アプリの活用、動画による実技テストの振り返り、国家試験対策や小テスト、アンケート実施、遠隔授業の実施などに加えて、今年度からは、電子教科書の積極的な導入や講義資料のデータ配信を実施した。また、Google アプリなどを積極的に活用し、講義だけではなく、復習のひとつとしても活用できている。法人カリキュラム委員会・ICT 委員会によるタブレットの使用について、最新の情報やアプリなどの情報収集を行っている。

5. 退学者抑制の取組み（進級率・卒業率 90%以上の実現）

(1) 学生の情報共有と問題の確認と問題に応じた早期対応

- ・看護学科

今年度の退学者は 7 名（1 年生 5 名、2 年生 1 名、3 年生 1 名）であり、退学率は 7.5%（7 名/93 名）となり、前年度退学率の 8.8%（10 名/113 名）よりも少ない結果となった。今年度の退学者については、昨年度同様、メンタル面の影響による体調不良者が半数と多かった。定期的に担任と面談し、保護者とも連携をとり、必要に応じて学校カウンセリングの使用を促していく。残り半数はモチベーションの低下が主な要因であった。退学者をなくすためにも看護を学ぶ楽しさを教授できるように、授業の工夫や学生の主体的な活動を支援していきつつ、学生個々の支援を行っていくことが必要である。

- ・理学療法学科

今年度の退学者は 7 名（1 年生 5 名、2 年生 2 名、3 年生 0 名）であり、退学率は 5.5%（7 名/128 名）となり、前年度の 6.2%（10 名/161 名）よりも軽減させることができた。

担任を中心として定期的な面談、保護者連絡、スクールカウンセリングの促しを行っていた。また、成績不良者を少なくするため、学年やクラス、各教科担当教員による個別学習など工夫しており、今年の退学者については、成績不振というよりは、「メンタル不調」や「進路変更」を理由にする学生がほとんどであった。

退学者「0」に向け、職業の魅力を発信する講義、修学意欲の高まるような講義や学内イベント、学習支援の質を高めることが必要である。

(2) カウンセリングの活用とカウンセラーとの連携

・看護学科

定期面談や必要に応じての面談で把握した学生の状況を相談し、学生にカウンセリングを勧めたりしている。また、カウンセラーと連携しながら学生のサポートも行っている。

・理学療法学科

必要に応じて学生面談の中で、カウンセリングを勧めるケースもある。カウンセラーとの連携は常に行っており、必要に応じて教員から、あるいはカウンセラーから相談を行えるようにしている。

(3) 保護者との連携

・看護学科

各学年で保護者会を定期的に行い、学年のカリキュラムや進学就職等必要なことを報告している。成績が低迷している場合など、適宜、担当から保護者に連絡し、必要に応じて三者面談を実施。保護者への連絡用アプリを導入され、必要に応じ活用するようにしている。

・理学療法学科

授業の欠課が続いたり、様子が変わったことがあったり、成績が低迷している場合など、適宜、学校から保護者へ電話連絡を行っている。

また、今年度から保護者連絡用として公式 LINE を導入し、スピード感を持って全体へ情報を発信するような事象については利用した。昨年見られたような、連絡が届かない事象はほとんど確認されなかった。

(4) 学習支援強化

・看護学科

1 年生は 2 年生のチャーターから学習方法やノートの取り方を学び、看護技術も放課後や空き時間を活用して直接指導を受けている。この体制をとってから 2 年生の自覚と縦のつながりができてきた。教員は指導している場面に参加し、助言支援している。学力低迷者は学習習慣もなく、成績が上がらないため、担当教員がその都度面接し、指導している。3 年生は模擬試験の結果を踏まえ、教員全員がチューターとして指導してきた。また、夏期および冬期にセミナーを設け指導してきた。今後も学生の状況に応じた学習支援体制や方法について検討していく。

・理学療法学科

1・2 年生については、時間外での小テスト・確認テストに加えて、教科担当教員による課題や口頭試問等を実施し、学習を促し習熟度を高めることを行ってきた。学習効果は認められるものの、取り組みに不十分な学生もみられるため、より個別性を重視した関りを一部の教員で行っている。

3 年生については、臨床実習において教員による実習地訪問を実施し、学生個々の問題点を早期把握と解決に努めた。理学療法総合学習および国家試験対策では、成績不良者に対し早期より少人数対応のセミナーや個別指導を実施するとともに、成績上位～中位の学生に対しても教員を教室内に配置し、質問等への体制を整えた。

5. 国家試験合格率 100%実現に向けた取り組み

(1) 学年に応じた学習指導

・看護学科

国家試験全員合格は看護学科管理目標でもあり、4 月初めの学科会議で各学年の教育計画を共有した。

今年度から 1. 2 年生合同で、産業医科大学で解剖見学を実施した。2 年生も共に学ぶ機会を得られているため、2 回解剖見学できるようになり、それぞれの目的に応じて効果的に学ぶことが出来ている。

1 年生：解剖生理学・病理学での学習を定着できるよう振り返り学習を行っている。年度末には低学年模試を実施し、実力を確認している。

2 年生：人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進を中心に繰り返し学習しながら学習習慣の定着とともに基礎学力の向上を図った。前期に低学年模試、後期に必修問題模試を実施。

3 年生：年間の模擬試験計画を立案し実施。模擬試験の成績低迷者に対し夏期、冬期にセミナーを実施して学習支援を行った。成績低迷者は、教員全員でチューターとなり、個別に指導してきた。学生の状況は随時学科会議内で共有し、冬期休暇中にもセミナーを実施した。

第 114 回看護師国家試験合格率：96.6% （28 名/29 名）

・理学療法学科

年度初めから国家試験対策についての年間計画やシステムについて検討した。

1・2 年生：年間を通じて、解剖学・生理学を中心としたセミナーを実施した。全国模試『医歯薬 3 科目模試』を年度末に実施し、知識の習熟度を確認している。

1・2 年生ともに、全国平均（専門学校・大学）を上回る結果となっている。

3 年生：個人学習と 2～3 人での口頭試問、教員による分野セミナー、個別対応を活動の主とした。

成績不良者への対応については、10 月から土曜・祝日登校を義務付け、教員による少人数対応を行った。成績不良者の選抜についても、学年主任、担任、役職者で最新の成績や学習への取り組み状況などを頻回に協議し、躊躇することなく見直しを行った。

成績上位～中位学生に対しても、教室内に教員を配置するなど、質問対応などの体制を整えた。

第 60 回理学療法士国家試験合格率：100%（46 名/46 名）

(2) 教員の指導力強化

・看護学科

中央研修や学会に参加を促し、積極的に参加している。今年度は対面だけではなく、ハイブリッドでの研修も増え、より参加しやすくなり、教員全員が研修に参加している。

1	研修名：教務主任養成講習会（日本看護学校協議会） 期 間：令和6年4月～令和7年1月 対象：教務部長代行 1名 内 容：教務主任養成 eラーニング、対面授業
2	研修名：国家試験分析（連携企業等：メディックメディア） 期 間：令和6年4月20日（金） 対象：教員 1名 内 容：第114回国家試験に向けた学習支援
3	研修名：第3回カマチグループ看護を考える （カマチグループ看護部及び学校法人巨樹の会主催） 期 間：令和6年5月25日（土） 対象：教員 10名 内 容：看護を考える講演会2024 ー未来の看護師を考えるー これからのIPE（専門職連携教育）・IPCP（専門職連携協働実践）
4	研修名：令和6年度 日本看護学校協議会学校長会（日本看護学校協議会） 期 間：令和6年5月28日（火） 対象：副学校長代行 1名 内 容：魅力ある学校づくりを目指して
5	研修名：令和6年度 教育研修（連携企業等：中央研修） 期 間：令和6年6月22日（土） 対象：教員 10名 内 容：発達障害傾向のある看護学生との関わり ー合理的配慮が必要な看護学生への関わりー
6	研修名：令和6年度中四国ブロック研修会（日本看護学校協議会） 期 間：令和6年7月20日（土） 対象：教員 1名 内 容：「心理的安全性に向けた関わり方」
7	研修名：令和6年度日本看護学校協議会学会 ICT教育研修会 （日本看護学校協議会） 期 間：令和6年12月2日（月） 対象：教員 1名 内 容：「看護師等養成所のDX化推進境域研修会」
8	研修名：令和6年度日本看護学校協議会副学校長・教務主任会 （日本看護学校協議会） 期 間：令和6年12月9日（月） 対象：教員 1名 内 容：「教員が活き活きと働ける学校運営を目指して」

・理学療法学科

教員間授業評価を実施し、互いにフィードバックを実施している。また、他校の同じ教科担当者との情報交換なども実施しており、各自で工夫している。

研修会参加については、ほとんどの教員が学会・研修会へ下記の通り参加している。

1	研修名：第 59 回日本理学療法教育学会学術研修大会 （連携企業等：公益社団法人 日本理学療法士協会） 期 間：令和 6 年 6 月 29 日（土）～30 日（日） 対象：教員 1 名 内 容：「ニューノーマルにおけるリハビリテーション教育の探求」
2	研修名：第 10 回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会 （連携企業等：一般社団法人 日本理学療法学会連合） 期 間：令和 6 年 7 月 6 日（土）～7 日（日） 対象：教員 1 名 内 容：「つなぐ、究める、その先へ。」
3	研修名：第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 （連携企業等：特定非営利活動法人 日本心臓リハビリテーション学会） 期 間：令和 6 年 7 月 13 日（土）～14 日（日） 対象：教員 1 名 内 容：「サイエンスしていく心臓リハビリテーション」
4	研修名：第 1 回カリキュラム委員会中央研修 （学校法人巨樹の会主催 外部講師を招いての研修会） 期 間：令和 6 年 8 月 16 日（金） 対象：教員 11 名 内 容：カリキュラム作成に関する研修
5	研修名：第 37 回全国教育研究大会・教員研修会 （連携企業等：全国リハビリテーション学校協会） 期 間：令和 6 年 8 月 30 日（金）～31 日（土） 対象：教員 1 名 内 容：「ナラティブと最先端医療教育の融合」
6	研修名：第 37 回中国ブロック理学療法士学会 （連携企業等：一般社団法人 鳥取県理学療法士会） 期 間：令和 6 年 9 月 7 日（土）～8 日（日） 対象：教員 1 名 内 容：「理学療法の「今」を問う ～変わらないために変わり続ける～」
7	研修名：第 12 回日本運動器理学療法学会学術大会 （連携企業等：一般社団法人 日本理学療法学会連合） 期 間：令和 6 年 9 月 14 日（土）～15 日（日） 対象：教員 1 名 内 容：「運動器理学療法の未来に向けた開拓」
8	研修名：第 22 回日本神経理学療法学会学術大会 （連携企業等：一般社団法人 日本神経理学療法学会） 期 間：令和 6 年 9 月 28 日（土） 対象：教員 1 名 内 容：「創始 次世代への超克」
9	研修名：第 1 回 ICT 委員会中央研修 （学校法人巨樹の会主催 外部講師を招いての研修会） 期 間：令和 6 年 10 月 31 日（金） 対象：教員 11 名 内 容：仕事に生かす生成系 A I Gemini の活用法について
10	研修名：第 11 回日本小児理学療法学会学術大会 （連携企業等：一般社団法人 日本小児理学療法学会） 期 間：令和 6 年 11 月 2 日（土）～3 日（日） 対象：教員 1 名 内 容：「Move forward！－あなたの小児理学療法を一つ先へー」

11	研修名：第 40 回日本義肢装具学会学術大会 （連携企業等：一般社団法人 日本義肢装具学会） 期 間：令和 6 年 11 月 9 日（土）～10 日（日） 内 容：「社会を支える義肢・装具、支援機器」 対象：教員 1 名
12	研修名：第 11 回日本地域理学療法学会学術大会 （連携企業等：一般社団法人 日本地域理学療法学会） 期 間：令和 6 年 11 月 16 日（土）～17 日（日） 内 容：「地域をつなぐ理学療法の役割と責任」 対象：教員 3 名
13	研修名：第 13 回日本理学療法教育学会学術大会 （連携企業等：一般社団法人 日本理学療法教育学会） 期 間：令和 6 年 12 月 14 日（土）～15 日（日） 内 容：「理学療法教育の熟達化」 対象：教員 4 名
14	研修名：第 10 回日本日本精神・心理領域理学療法研究会学術大会 （連携企業等：一般社団法人 日本理学療法学会連合） 期 間：令和 7 年 1 月 11 日（土） 内 容：「理学療法と精神医療の接点」 対象：教員 1 名
15	研修名：第 91 回運動処方講習会入門編 （連携企業等：特定非営利活動法人 ジャパンハートクラブ） 期 間：令和 7 年 1 月 19 日（日） 内 容：「心肺運動負荷試験の基本と呼気ガス分析の基礎知識」 対象：教員 1 名
16	研修名：第 2 回カリキュラム委員会中央研修（学校法人巨樹の会主催） 期 間：令和 7 年 3 月 10 日（月） 内 容：カリキュラム作成に関する研修（第 1 回の続編） 対象：教員 11 名

（3）自己学習力の強化

・看護学科

学生に対しては 1 年次より学習の仕方の説明を行い、適宜確認し指導している。授業に関してもグループワークでの発表だけでなく、個人ワークの発表など個人の学びを発表する機会を作っている。それと終講試験や模擬試験の結果とリンクさせ、学生に学習継続の必要性を指導している。

・理学療法学科

能動的な学びを促すために、各科目において講義方法、課題の提示、ICT 技術の活用など工夫した。真剣に取り組む学生も多くみられたが、取り組みが不十分な学生も散見され、そのような学生の能動的な学習を促すことが今後の課題である。まずは、教員の意識を変えていくことに着手し、学習支援対策など体制やシステムを構築していきたい。

7. 定員充足の取り組み

（1）インターネット、SNS 等による情報発信の強化

昨年度からの継続として、Web でのバナー広告およびジオターゲティング広告を実施した。また、Instagram や Tik Tok の更新頻度を高める工夫として、学生にも協力をお願い

した。しかしながら、更新頻度は昨年と同等となり、更新頻度を高めていくための体制作りに課題を残している。

上記インターネット戦略に加えて、広報関係業者による媒体も活用することで、1・2年生からの資料請求やオープンキャンパス参加については、増加している。

(2) 高校・大学訪問の強化、ガイダンスへの積極的参加

高校内ガイダンス 43 件、会場ガイダンス 21 件に出席し、357 名の高校生へ職業理解・学校説明・オープンキャンパス情報・入試情報などについて話をした。

高校訪問については、4 月・6 月・7 月・9 月・12 月に山口県内および北九州市内、広島県・島根県西部の約 120 校を訪問し、新入生および在校生の状況報告、オープンキャンパス情報や入試情報の報告、指定校推薦書の持参、入学前課題の持参などを実施した。

(3) 高専連携の強化（部活支援活動、キャリア教育協力）

今年度は部活動支援として、系列の小倉校とともに 2 月に高水高校に伺った。

キャリア教育協力として、6 月に山口県立厚狭高等学校、10 月に下関北高校、12 月に下関西高校、梅光学院高校からの依頼があり、本校にて職業理解に関する講義・体験会、研究に関する助言等を実施した。また、5 月には下関市立日新中学校、9 月には下関市立山の田中学校からの依頼があり、職場体験・職業理解の出張講義を実施した。

8. 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進

(1) 地域ボランティア活動参加への促しと表彰

例年通り、地域の清掃活動を実施した。また、山口県からの依頼としてキラリンピックに 18 名、下関市からの依頼として海峡マラソンに 32 名の学生がボランティアとして参加した。

今年度、新たなボランティアとして高齢者向きのスマホ教室の依頼があり、2 名の学生が参加した。

(2) 各学年清掃活動の継続

今年度も、授業の一環で 1 年生全員による地域清掃活動を実施した。

9. 業務効率化の促進

(1) 業務効率改善に向けた職員の意識の改善

・看護学科

できるだけ皆で分担できるように学科会議で現状の情報共有を図り、対策を検討している。調整力として力がついてきたが、学年担当者は時間内は学生指導優先で、自分の講義準備やまとめなど後回しになり、残業時間が増えていく傾向にある。業務の効率化を促進していくために、業務の見直しを行っていく。

・理学療法学科

「働き方改革」という言葉が随分と浸透しており、学校でのイベント等がない時には、就業時間直後に業務を終えて帰宅する教員が増えている。しかし、職員によって残業時間に偏りが見られ、業務分担の見直しが必要である。また、就職サポート、定期試験、国家試験対策など、各種行事の際には学生対応のため残業時間が増えており、今後も様々な方法を活用しながら業務の効率化を促進していく。

(2) 学内業務の見直しと適切な業務分担

・看護学科

学科会議内で状況報告し情報は皆で共有し、対策を考えている。役割分担を決定する際、協力的に役割を検討し、適切な業務分担が実施できた。今後も、適切な役割分担ができるよう適宜調整していく。

・理学療法学科

昨年度より、職員の業務能力や長所を生かせるよう各委員会や係の担当者を変更した。また、業務負担が同程度になるよう工夫したものの、職員によっての残業時間の偏りが見られたため、次年度については、看護学科、事務部とも協議して、業務を分担することとなった。今後も、適切な分担となるよう適宜調整していく。

(3) 効率化に伴う設備の充実

・看護学科

iPad や高機能シミュレーターのレンタルなど、必要性を認められ、活用できている。使い方を工夫することで時間の管理もでき、意欲にもつながっている。

各会議でもタブレットを利用して、ペーパーレス化を推進している。今後は、アプリの検討や見直しを行う予定。

・理学療法学科

管理会議や学科会議、各委員会の会議でも、タブレットを利用したペーパーレス化を推進した。それにより、資料印刷・配布にかかる時間と手間が削減された。また、学生へのアンケートについても、グーグルフォームによる回答を積極的に導入することで、結果をまとめたりする作業が短縮されている。遅れることもなくなり、様々な業務に支障をきたすことが少なくなっている。

・事務

Google ドライブを活用し、スケジュールやチャット機能で情報の共有化がし易くなった。

八千代リハビリテーション学院

～増員に係る引き続いた環境整備と職業実践教育の推進～

- ① 入学定員増員、経年劣化に係る必要な教育器具・機材、備品の購入や整備
- ・ B 棟演習室 3 室で使用中の丸椅子で不具合があるもの全て入替を行った。
 - ・ B 棟講堂の音響設備機材の入れ替え工事を行いスピーカーの音割れ、マイク不具合等が改善され音質も格段に良くなった。プロジェクターも常設し大型モニターを 2 台導入。

- ② 環境の改善
- ・ 証明書代や再試験代などの支払いを窓口で現金払いで行っていたが、今年度より券売機を導入し、現金授受を無くし、手続きの混雑緩和、負担軽減を図った。
 - ・ 学校の看板を LED ライトに変更したことで明るさが増し、看板も目立つようになった。
 - ・ B 棟各窓の指挟み防止ストッパーの取替を行い、指詰めリスク回避に注力し、各教室のブラインドについても操作コードの切れや紛失を全て修繕し、操作しやすくなった。
 - ・ 卒業生の集合写真の配布方法を郵送からデータのダウンロード方式に変更。

- ③ 学外学習機会の確保
- ・ 定員増で次年度に実習学年の学生数が増える為、新規実習施設の登録数を増やすべく継続して実習依頼、施設登録を行った。
 - ・ 千葉県のボランティアに関する講義の受講機会を設け、八千代市の障がい者スポーツ大会、ニューリバーロードレースなどでのボランティア活動に参加し、学生たちのボランティア活動の機会を継続して提供した。
 - ・ 八千代市のゲートキーパー養成講座の受講を計画、催行した。

- ④ ICTを活用した教育の推進
- ・ 令和 6 年度入学生へタブレットとタッチペンシルを贈呈、ICT 教育に対応できる体制を整備し、電子教科書にも対応。
 - ・ WEB サービス（エドパズル）の利用継続、オンデマンドの授業も取り入れ、夜間コースへの休日開校の数の削減に努めた。
 - ・ 台風や降雪の予報に合わせて遠隔授業で対応し、学びの継続に努めた。
 - ・ 学生が教員の出勤状況を一目で確認できるようにデジタルサイネージシステムを導入。大きなモニターを教員室前に設置した。

- ⑤ 効果的な広報活動の展開
- ・ 千葉ジェッツのサポーターとして、掲示物やホームページで在校生や受験生にアピールができた。
 - ・ 学院祭と開校 20 周年イベントを併せて行い、乙武 洋匡氏の講演会、もとみち氏の手話歌ライブ、キッチンカー販売等を催行し、来校者へは紅白まんじゅうを配布、近隣地域住民への認知度アップにつながった。

福岡水巻看護助産学校

～地域に貢献できる人材育成～

(1) 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進

① シミュレーション教育の充実

【看護学科】

シミュレーション学習では、動画を活用し、現場に近い環境を再現して実践的な学びを強化した。また、シミュレーターを使用し、臨地実習における実践活動外学習で、臨床で遭遇する状況を教材として学びを促進した。

【助産学科】

全国助産師教育協議会の地区研修会に教員全員で参加し、妊娠期の OSCE について学び、各科目の演習や技術テストの際に参考にしながら実施に活かす事ができた。また、実習時に臨地で様々な状況設定をしながら分娩介助のシミュレーションを実施していき、実践の振り返りや、次の介助に活かす事ができた。今年度も、助産院での超音波診断時のシミュレーションを実施し、実践力の向上に繋げる事ができた。

② 看護教員の教育実践力向上

【看護学科】

令和 6 年度、中央研修が 2 回実施された。参加率は高く、1 回目 11 名 (91%) 2 回目 9 名 (75%) で、学生支援に役立つ具体的な対応や考え方を学んだ。専門性向上を目指し、2 名が学会に加入し、学会所属の教員が 3 名 (25%) となった。6 名 (50%) の教員が学会に参加し自己研鑽を重ねた。

【助産学科】

第 80 回日本助産師学会に教員全員が学生と共にオンラインで参加し、助産師に求められている多様化する活動について講義や実習時に発信し、卒業後も自己研鑽できるように意識して関わる事ができた。所属学会の学会に参加や、アドバンス助産師 3 名は、次回の認定更新に向けた継続研修の参加、NCPR や J-CMELS の資格更新の自己研鑽に取り組み、講義内や実習で教育内容の充実に活かす事ができた。

(2) 学生満足度向上に向けた取り組み

① 学習環境の整備

【看護学科】

情報処理室のパソコンを入れ替え、レポート作成や調べ学習を円滑に行えるようにした。

【助産学科】

Wi-Fi 環境については整備できており、アンケートの回収などに活かす事ができた。しかし教室のモニター教材や講義用の PC が古く講義が中断することが時にあったが、活用はできた。学習スペースとしては教室、実習室、演習室、情報処理室、学習室など使用用途に応じて学習環境を整えている。図書の教材も学生のニーズを考慮した本や雑誌の補充もできている。

② 教育教材の充実

【看護学科】

古くなった妊婦体験スーツと高齢者体験スーツを入れ替え、体験型授業を行った。正確に着用でき、身体的負担や生活の困難さを実感した。また、静脈血採血用のモデル機器を入れかえ、リアルな状況で演習を行った。

【助産学科】

実習でのイメージがつかない学生が多く、既存のモデルや教材を使用して、実習に活かすことができるよう取り組み、学生の満足度向上にもつながった。

③学生との援助的関係の確立

【看護学科】

各学年、年 2 回の面談を実施。悩みを抱える学生には個別で面談を行い、必要に応じてカウンセリングや受診を勧めた。

【助産学科】

入学時に個人面談を実施し、チューター制を中心に学生支援を実施。就職や個別相談についても、教員へ相談や履歴書確認・面接練習などの支援をし、就職支援の満足度は上がった。また、学生が安心して教員へ相談できる態勢を整えていく為に、教員間の情報共有、一貫した指導、学生へのこまめな声掛けを意識して行い、学生との援助的関係がスムーズに確立でき、学生の満足度も高かった。

(3) ICT 環境の運用

①共同学習としての ICT 教育の推進

②ICT 教育力の向上

【看護学科】

Google クラウドスルームを使用し、連絡事項の共有や課題提出を効率化した。グループでのスライド作成を通じて協働学習を促進した。さらに、学生が看護技術を動画で記録し、振り返りを通じて技術向上を図った。

【助産学科】

情報のモラルや ICT リテラシーについては、入学時ガイダンスや実習前の OR で行い、機会毎に教員が意識して関わった。助産過程方法論、助産自律・専門実習の実習記録を電子化しているが、情報の取り扱い卒業前のデータ削除まで管理できた。教材として視覚的に映像を取り入れ、また、インターネットでの調べ学習、授業内でのグループワークを取り入れ、分かりやすい授業で学習意欲を向上できるように努めた。アンケート集計に関しては、学生・教員共に Google フォームを利用することができた。

(4) 進級率・卒業率向上への取り組み

①学生個々に応じた学習支援

【看護学科】

1 年生には前期、成績低迷者に対して学習会を実施。3 年生は、国家試験対策としてチューター制を導入し、学習支援を行った。しかし、退学率は、1 年生が 9.2 パーセント、2 年生が 4%であり、昨年度と比較して退学率が上昇した。3 年生には退学者はなかった。

【助産学科】

入学後に、学校生活も含め、学習支援を行う。情報は、教員間で共有し支援できるようにした。入学後より多重課題となり、不安を訴える学生も多いが、学校生活の中で意識的に教員がこまめに声かけをしてフォローした。国家試験対策についても、チューターを中心に、自律性を促しながら、学習状況に合わせた学習支援をすることができた。

②保護者との連携

【看護学科】

年 2 回の保護者会や、個人面談を通じて情報共有を行い連携を図った。

【助産学科】

入学後に、学校生活も含め学習支援を行う。情報は、教員間で共有し支援できるようにした。入学後より多重課題となり、不安を訴える学生も多かったが、学校生活の中で意識

的に教員がこまめに声かけをしてフォローした。国家試験対策についても、チューターを中心に、自律性を促しながら、学習状況に合わせた学習支援をすることができた。

③学生の状況に応じたカウンセリングの効果的な活用

【看護学科】

月 1～2 回、17 時からカウンセリングを実施。継続してカウンセリングを受けている学生もいるが、悩みを抱えた際に、柔軟に対応できる体制が求められる。

【助産学科】

精神面で気になる学生が数名いたが、学生への声掛けや、学生が話しかけやすい雰囲気を作りながら関わり、必要時に面談をしながら支援をしていき、無事に 1 年間乗り越える事ができた。1 名にカウンセリングを勧め、1 回活用したが、その後の活用はなく、教員で対応していった。

(5) 国家試験合格率 100%に向けた取り組み

①1 年次からの積み上げとなるカリキュラムの構築

【看護学科】

基礎科目・専門基礎科目・専門科目を関連づけ、1 年生では。模擬試験と共同学習を通じて、振り返り学習を実施。2 年生では、実習と国家試験問題を結び付け、3 年生では、セミナー（春・夏・冬）や、特別講義、模擬試験を 12 回実施、同時にメンタルサポートを強化した。結果、66 名受験し、64 名が合格した。（合格率：97.0%）

②修学指導への取り組みの強化

【看護学科】

1 年次より、全科目履修できるよう支援した。看護学実習では、一部の領域で、国家試験対策を取り入れ、実習経験と知識を結び付けた。

【助産学科】

入学時に行った前年度の助産師国家試験の模試結果が過去最低で、分かりやすい講義となるよう、外部講師と情報共有を密にして講義・演習に取り組んだ。また、昨年の学生のアンケートからの課題であった心理的支援の充実ができるよう、チューターを中心に教員全員で学生への細やかな声掛けや相談しやすい学習支援を意識して関わった。また、学習状況に合わせて、課題や取り組みの方向性を教員間での情報共有もしながら、支援していく事ができ、学生のアンケートでも満足度も高かった。第 108 回国家試験の合格率も 100% で目標達成することができた。

(6) 定員充足への取り組み

①広報委員会を中心に学生確保に取り組む

(1) SNS を活用して情報発信を行い、認知度のアップを図る。

【看護学科】

SNS（TikTok など）を活用し、学校生活や実習風景を発信し、認知度向上を図った。

(2) 入学生のニーズに応じた学校説明会の実施

【看護学科】

従来の対面型学校説明会に加え、社会人向けの夜間オンラインオープンキャンパスを新たに実施した。対面型学校説明会では、学生が受験生と関わる機会を提供し、ツアー式や座談会を取り入れて、よりリアルな学校生活をイメージしやすい場を作った。

(3) 高校訪問をし、学生の状況提供を行い連携を図る。

【看護学科】

教職員で協力し、6月・11月に高校訪問を実施。看護師志望者が減少傾向にある中、オープンキャンパスへの参加を促した。

【助産学科】

今年度をもって助産学科閉科のため、助産学科の募集活動は行っていない。看護学科募集の為、実習先などへのチラシ配布の協力をし、学生確保に向けての協力をした。

(7) 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進

- ①地域清掃の継続
- ②地域主催のイベント参加への推進
- ③地域のイベント及びボランティア活動への参加

【看護学科】

各学年、年1回の清掃活動を実施した。

社会福祉協議会からの紹介で、地域小学校の子ども達を招き、看護師体験を実施した。中学生には「夢授業」を通じて看護職の魅力を伝えた。これにより、地域社会における看護学校の役割を果たした。

【助産学科】

実習施設であるみずまき助産院の大掃除を実施。また、卒業前の献血には積極的に参加した。地域主催のイベントなどへの参加は実習中の感染対策の為、積極的にすすめる事が出来なかった。

(8) 就職支援・キャリア支援

- ①就職先選択の考え方や将来ビジョンを考えるための体制作り

【看護学科】

2年次から本格的に就職支援を実施。個別指導、模擬面接、履歴書添削を行い、就職活動をサポートした。今年度、62名が就職内定(89.8%)2名が進学(2.8%)、5名が就職未定(7.2%)となった。

キャリア支援については、1年次より「キャリアデザイン」科目を通じて、専門看護師や保健師・助産師のキャリア開発に触れ、学生が将来を考える機会を提供した。

【助産学科】

就職活動オリエンテーションを実施し、4月中旬以降で面接し、就職先の具体化を図っている。自分の目指す助産師像を具体化させ、病院見学・面接の計画を立てていく。卒業生の就職先・試験内容の記載されたファイルや、実習施設からの募集、郵送された募集要項の提示、先輩からの情報収集と情報提供を実施。関連施設への就職状況は、東京品川病院へ1名、実習施設へ3名就職し、就職支援、キャリア支援はできた。

(9) 学校設備・建物の整備

- ①老朽化した施設の整備

定期的な設備点検・整備を継続していき、学生が、安全で快適な環境で学習できるようにしていく。今年度は助産学科教務室のエアコンの修理があった。

(10) 教職員の健康維持・増進

- ①ヘルスプロモーションに努める

【看護学科】

教員が自らの健康管理に留意し、今年度、大病による欠勤者はなかった。

【助産学科】

定期的な受診が必要な教職員が受診しやすいよう声掛けし、体調のコントロールができるようにしていった。

武雄看護リハビリテーション学校

全校一丸となりブランド化を図り、魅力ある信頼される学校創りに邁進する

～すべてにパーフェクトを目指して、活力と活気ある学校に～

1) 医療人としての人間性・人間力の育成

学校長による講話や日々の活動で学生に医療人としての心構えを指導しており意識付けが出来てきている。来校者に対しての挨拶や立ち振る舞いなども礼儀正しい態度を取ることが出来ている。

退学者も少なく、皆勤賞受賞者数も多かった。学校行事等（卒業式・入学式・始業式・終業式）においては学生が司会進行をするなど学生の自主性を育成している。

先輩が後輩に勉強を教えるなど先輩後輩の絆も強く、また国家試験前には多くの卒業生が後輩の激励に来校してくれた。

皆勤賞受賞者数

理学療法学科) 1年8名 2年11名 3年生12名 3ヶ年皆勤賞9名 精勤賞19名

看護学科) 1年8名 2年19名 3年生13名 3ヶ年皆勤賞7名 精勤賞11名

2) 進路保障 100%達成

就職は12年連続100%を年内に達成することが出来た。学校長には、就職試験に向けての履歴書や面接指導、小論文指導まで全学生に個別指導をしていただいた。また、3年担任だけでなく教職員全体で一人ひとりに合わせた支援を実施した。

関連病院への就職を例年よりも多く出すことが出来た。

関連病院への内定人数：理学療法学科 29/41 70.7%

看護学科 32/41 78.0%

3) 国家試験全員合格

1年次からの指導の積み重ねと全職員が一丸となり、各学生の成績分析を随時行い、臨機応変に学習指導計画を立て指導した。理学療法学科は卒業生全員の4年連続100%の合格を達成し、看護学科においては、入学時の学生が1名も欠けることなく全員国家試験を受験し全員が合格することが出来た。教職員が一丸となって取り組んだことと、卒業生や新武雄病院、ご家族など多くの方々からのご支援を頂き学生たちの意欲向上に繋がった。

国家試験合格率：理学療法学科 (41/41) 100%

看護学科 (41/41) 100%

4) 退学・休学者をなくす

今年度退学者は若干名出たが、定着率は向上してきた。

理学療法学科 1年生4名 2年生1名 3年生2名 (進路変更)

看護学科 1年生1名 2年生0名 3年生0名 (進路変更)

担任を中心としたこまめな学生支援を行い、随時スクールカウンセラーや関係機関、保護者との連携を図った。

学生の親へメール配信できるシステムを構築し必要に応じて連絡を行った。

また理学療法学科では 3 月に対面での保護者会を開催し直接コミュニケーションを図ることも再開出来た。

学生との個別面談を随時に実施し、密な対応をしてきた。

学校長や管理職の先生も必要に応じて、学生対応をしている。

5) 教職員の資質向上

毎日の朝礼時や会議において、学校長より学生指導に必要な事項や業務の在り方について講話していただいた。そのため学生目線に立った教育、教員としての責務について共通理解ができています。今後はさらに職務の優先順位を踏まえスピード感のある対応を身に付けていく必要性がある。

職員の研修は、県の補助金 500,000 円を活用しながら積極的に参加し自己研鑽に努めている。

6) 魅力ある指導実践 (ICT 活用等)

iPad 利用等、ICT 環境を有効活用した講義や学習指導を実施した。

看護学科と理学療法学科という 2 科が存在する本校の特徴を生かし、両科合同授業や理学療法学科教員による看護学生への講義や逆のシステムなどを実施し、職種間連携を図ることが出来てきている。

7) 高校との信頼構築で定数確保 (少子化対策)

学校説明会やオープンキャンパス、高校訪問を対面で実施し本校の強みや資格取得について伝えることが出来た。また、「佐賀県専修学校部会」にも参加し高校生等の情報収集に努めた。各高校へパンフレット、募集要項に加え、今年度も在校生や卒業生からのメッセージや近況を報告するなど、本校の雰囲気や良さがより伝わるような工夫を行った。高校教諭の方々の来校も多く、可能な限り学内見学や学生の生活状況を直接見て頂いた。

日々の生活状況はホームページや SNS を通じて情報を頻回に正確に配信している。

看護学科は、入学金納入前に 3 名、入学金納入後に 6 名の辞退者がでた。定員確保のために 3 月末まで特別選抜入学試験を実施したが受験には至らず 27 名の入学生となった。理学療法学科は 41 名の入学生の確保ができた。

受験者数 理学療法学科 41 名 (前年 45 名) 入学者 41 名

看護学科 36 名 (前年 48 名) 入学者 27 名

教育力向上のための授業評価体制は定着できているが、クラス担任として生活指導力など

8) 地域・行政と連携したボランティア活動

2024 年は佐賀で国スポ・全障スポが開催された際には全学生で各県の応援旗の作成や、選手団サポーターとして 3 日間のボランティア活動で選手団を支えた。

各県の役員と選手の皆さんからお礼の手紙や電話をいただいた。

また、自主的に清掃活動を実施するなど、積極的に地域ボランティア活動も行った。

看護学科では、地域の夏祭りで司会として参加するなど地域にも開かれた学校づくりを行った。

また新武雄病院での献血にも多くの学生 (82 名) が協力することが出来た。

9) 教育費等の削減と業務の効率化

看護学科、理学療法学科ともに近隣の実習施設との連携を図り、実習施設の増加に繋がった。特に看護学科の母性看護学実習は対馬病院で実施されていたが、今年度は福岡市内のそらレディースクリニックで実習を行うことができ、実習生の移動費等の削減に繋がった。

公費の削減については、教職員の節約の意識改革が必要であり、管理者の徹底した指導の在り方も考えなければならない。

また、コピー機のカウント料について

令和5年度 1年間カウント料 約3,370,432円

令和6年度 1年間カウント料 約3,454,167円

前年度より 83,735円増

今後は、会議や情報をドライブで共有化するなど ICT 化を進め、ペーパーレス化を進めていく。

令和6年度電気料金（学校分）について

【参考】令和4年度電気使用量 220,971Kwh 電気料 5,071,591円

令和5年度電気使用量 210,995kwh 電気料 4,397,304円

令和6年度電気使用量 215,972Kwh 電気料 6,091,119円

過去3年分を比較して令和6年度は前年度に比べ使用量は2%増に留まったが、電気料に関しては原油価格高騰により光熱費もかなり高騰し 39%の増になっている。県から物価高騰対策支援事業として 375,000 円の補助金の支援を受けることが出来たが、今後はさらに電気・空調の適正な使用を徹底していく必要がある。

10) 学校環境整備

学生寮の備品買い替えなど学生の生活状況を把握しながら随時実施した。
学校駐車場に関しても、事故の未然防止のために学生が駐車区域を把握しやすいように整備した。

令和6年度 駐車場収入 2,020,300円

（女子寮）

令和5年度 レモンガラス11部屋 第2寮（なないろ）12部屋 23部屋 47名入寮

水道光熱費 2,883,155円 学校負担

令和6年度 レモンガラス9部屋 第2寮（なないろ）12部屋 23部屋 39名入寮

水道光熱費 2,985,314円 学校負担

令和6年度学校負担水道光熱費 前年度比 3.5%増

年々、女子寮に入寮希望の学生が減少し、令和6年度は前年度より8名の減であった。
しかし1人部屋の学生が2名入寮し2部屋分の光熱費が増となっている。
また、学生は節電を心がけているが光熱費高騰により前年度よりも増となっている。今後も学生へ節電の意識づけを徹底していく必要がある。
令和7年度からは光熱費高騰に伴い寮費の値上げを行うこととしている。

（男子寮）

道の家 13名入寮

他学年・他学科で交流を持ちながら寮生活をしている。また男子寮の管理は学校でないため、寮生と本校職員が面談を行いながら道の家寮担当との連携を図った。

男子寮は生活環境が前年よりも改善されてきた。しかし、まだまだ問題点もあり、今後「道の家」と学校との連携を密に図っていく。

また、今年度は県から物価高騰に伴う寮食材費等支援事業として 473,000 円の補助があり、男子寮生の寮食の支援に充てることができた。

11) 2025 年開校 15 周年に向けての取り組み

これまでの成果や書類の整理をおこなっている。

Ⅲ. 決算の概要

経年比較

1. 資金収支計算書 (収入の部)

(単位:千円)

科目 \ 年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	3,126,105	3,144,255	3,095,196	3,095,963	3,032,350
手数料収入	31,200	36,818	41,022	37,781	32,131
寄付金収入	39,545	20,240	22,770	1,318	1,200
補助金収入	179,619	236,352	228,585	223,668	207,051
資産売却収入	7,462	368,896	492,339	942,713	1,915,954
付随事業・収益事業収入	140,708	136,421	129,916	140,142	135,644
受取利息・配当金収入	127,349	98,835	152,439	160,387	191,029
雑収入	24,541	29,606	209,337	27,678	31,407
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	2,380,795	2,091,685	1,710,419	952,599	760,713
その他の収入	181,128	158,300	218,901	1,109,475	1,094,327
資金収入調整勘定	△ 2,563,424	△ 2,404,304	△ 2,110,108	△ 1,730,714	△ 976,898
前年度繰越支払資金	9,998,026	9,589,929	4,560,597	2,544,209	1,490,102
計	13,673,054	13,507,034	8,751,412	7,505,219	7,915,010

(支出の部)

(単位:千円)

科目 \ 年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	1,737,958	1,837,492	2,114,098	2,228,385	2,158,899
教育研究経費支出	686,116	745,350	911,285	941,930	852,078
管理経費支出	370,110	660,138	422,404	384,694	401,542
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	553,492	5,245,157	1,463,333	27,861	21,630
設備関係支出	94,934	427,719	179,012	63,821	65,201
資産運用支出	477,900	131,681	977,458	1,068,592	1,191,448
その他の支出	275,148	222,019	490,430	1,503,574	1,246,376
資金支出調整勘定	△ 112,534	△ 323,119	△ 350,817	△ 203,739	△ 175,791
翌年度繰越支払資金	9,589,929	4,560,597	2,544,209	1,490,102	2,153,628
計	13,673,054	13,507,034	8,751,412	7,505,219	7,915,010

2. 事業活動収支計算書

(単位:千円)

年度 科目			令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3, 126, 105	3, 144, 255	3, 095, 196	3, 095, 963	3, 032, 350
		手数料	31, 200	36, 818	41, 022	37, 781	32, 131
		寄付金	2, 831	790	7, 132	2, 087	1, 670
		経常費等補助金	169, 762	228, 776	227, 908	220, 092	199, 409
		付随事業収入	140, 708	136, 421	129, 916	140, 142	135, 644
		雑収入	24, 595	32, 899	60, 720	31, 591	34, 349
		教育活動収入計	3, 495, 201	3, 579, 959	3, 561, 893	3, 527, 657	3, 435, 553
	事業活動支出の部	人件費	1, 754, 523	1, 836, 223	2, 118, 485	2, 228, 757	2, 161, 077
		教育研究経費	854, 364	915, 925	1, 337, 888	1, 409, 022	1, 307, 508
		管理経費	476, 403	822, 577	527, 331	492, 882	507, 201
		徴収不能額等	165	320	868	847	117
		教育活動支出計	3, 085, 455	3, 575, 045	3, 984, 571	4, 131, 509	3, 975, 903
		教育活動収支差額		409, 746	4, 914	△ 422, 678	△ 603, 852
	教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	127, 349	98, 835	152, 439	160, 387
その他の教育活動外収入			29, 307	177, 615	155, 836	292, 658	0
教育活動外収入計			156, 655	276, 450	308, 274	453, 045	191, 029
支出の部		借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	25, 963
		教育活動外支出計	0	0	0	0	25, 963
教育活動外収支差額		156, 655	276, 450	308, 274	453, 045	165, 066	
経常収支差額		566, 401	281, 364	△ 114, 404	△ 150, 807	△ 375, 284	
特別収支	収入の部	資産売却差額	315	200, 614	8, 411	0	161, 349
		その他の特別収入	53, 218	29, 964	25, 866	11, 454	17, 889
		特別収入計	53, 533	230, 578	34, 277	11, 454	179, 237
		支出の部	資産処分差額	11, 411	90, 155	2, 111	67, 358
	その他の特別支出		0	0	0	0	0
	特別支出計		11, 411	90, 155	2, 111	67, 358	779
	特別収支差額		42, 122	140, 423	32, 166	△ 55, 904	178, 458
基本金組入前当年度収支差額		608, 523	421, 786	△ 82, 237	△ 206, 711	△ 196, 826	
基本金組入額合計		△ 643, 149	△ 6, 257, 129	△ 4, 212, 814	△ 349, 331	△ 167, 137	
当年度収支差額		△ 34, 626	△ 5, 835, 342	△ 4, 295, 052	△ 556, 043	△ 363, 963	
前年度繰越収支差額		6, 338, 262	6, 303, 635	1, 402, 163	△ 281, 034	△ 759, 897	
基本金取崩額		0	933, 870	2, 611, 855	77, 180	14, 263	
翌年度繰越収支差額		6, 303, 635	1, 402, 163	△ 281, 034	△ 759, 897	△ 1, 109, 596	
(参考)							
事業活動収入計			3, 705, 389	4, 086, 986	3, 904, 445	3, 992, 155	3, 805, 820
事業活動支出計			3, 096, 866	3, 665, 200	3, 986, 683	4, 198, 867	4, 002, 645

3. 貸借対照表

(単位:千円)

資産の部					
年度 科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産	10,447,883	15,841,090	17,457,943	17,329,568	16,262,455
流動資産	9,745,898	4,675,705	2,681,123	1,589,642	2,252,281
資産の部合計	20,193,781	20,516,795	20,139,066	18,919,210	18,514,736

負債の部					
年度 科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定負債	195,027	187,388	187,845	182,202	177,919
流動負債	2,731,610	2,640,477	2,344,528	1,337,026	1,133,661
負債の部合計	2,926,637	2,827,865	2,532,373	1,519,228	1,311,580

純資産の部					
年度 科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
基本金	10,963,509	16,286,768	17,887,727	18,159,878	18,312,753
繰越収支差額	6,303,635	1,402,163	△ 281,034	△ 759,897	△ 1,109,596
純資産の部合計	17,267,144	17,688,931	17,606,693	17,399,982	17,203,156
負債及び純資産の部合計	201,937,813	205,167,953	201,390,659	189,192,099	185,147,364

4. 財務比率表

区分	比率	算式(×100%)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
財務状況	負債率	$\frac{\text{総負債}-\text{前受金}}{\text{総資産}}$	3.1%	4.1%	4.6%	3.0%	3.0%
	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債}+\text{純資産}}$	85.5%	86.2%	87.4%	92.0%	92.9%
	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	48.2%	22.7%	13.3%	8.4%	12.2%
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	356.7%	177.0%	114.3%	118.9%	198.7%
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}+\text{固定負債}}$	59.8%	88.6%	98.1%	98.6%	93.6%
	前受金構成比率	$\frac{\text{前受金}}{\text{現金}+\text{預金}}$	24.8%	45.8%	67.2%	63.9%	35.3%
	前受金保有率	$\frac{\text{現金}+\text{預金}}{\text{前受金}}$	402.6%	218.0%	148.7%	156.4%	283.1%
	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債}+\text{純資産}}$	31.2%	6.8%	-1.4%	-4.0%	-6.0%
経営状況	教育活動支出依存率	$\frac{\text{教育活動支出}}{\text{学生生徒等納付金}}$	98.7%	113.7%	128.7%	133.4%	131.1%
	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	56.1%	58.4%	68.4%	72.0%	71.3%
	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	23.4%	23.7%	34.5%	35.4%	36.1%
	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	15.5%	7.3%	-2.9%	-3.8%	-10.3%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	85.6%	81.5%	79.9%	77.8%	83.6%
	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	4.8%	5.7%	5.8%	5.6%	5.4%
	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	-17.3%	-153.1%	-107.9%	-8.8%	-4.4%
	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	48.0%	47.6%	54.7%	56.0%	59.6%

決算の総評

①事業活動収支計算書の状況

本年度における事業活動収入計は、3,805,820 千円となりました。収入の内訳としては、入学金・授業料等の「学生生徒等納付金」が3,032,350 千円と79.7%を占め、ついで「補助金収入」が199,409 千円と約5.2%となっております。

支出につきましては、「人件費」が2,161,077 千円、「教育研究経費」1,307,508 千円及び「管理経費」507,201 千円などを主なものとして、事業活動支出計が4,002,645 千円円となっております。その結果、「基本金組入前当年度収支差額」が△196,826 千円と令和6年度単年度としては支出超過となりました。

事業活動収入計が前年度より減少している要因としては、運用財産として保有している外貨建て有価証券の為替レートによる「その他の教育活動外収入」の減少、令和5年度末をもって福岡看護専門学校及び福岡和白リハビリテーション学院が閉校したこと及び昨今の少子化の影響もあり入学定員未達による「学生生徒等納付金」の減少が大きなものと考えられます。令和7年度以降は、令和健康科学大学の学生が全学年揃うこと、閉科する学科の人件費を含めた経費の精算が行われていくこと、専門学校2校では入学者獲得のために校納金を減額すること及び開学当初購入した減価償却対象資産の減価償却額の計上がなくなること等により、徐々に収入超過となる見通しです。

②貸借対照表の状況

有形固定資産は、収益事業のみずまき助産院閉院に伴い、資産を福岡水巻看護専門学校へ移管したことによる増加及び教育用機器備品の新規購入や女子ロッカー室の改修、教室の空調機入替などの増加はあったものの、減価償却資産の償却が進行したことなどにより374,491 千円の減少となっています。当年度末における減価償却額の累計額は、前年度より521,193 千円増加して5,954,092 千円となりました。その他の固定資産については、有価証券の償還などによるもの。また、収益事業のみずまき助産院閉院に伴う「収益事業元入金」回収などによる減少となっています。その結果、固定資産に流動資産を加えた総資産は、前年度より404,473 千円減少して18,514,736 千円となりました。

固定負債は、長期未払金の減少などにより177,919 千円となりました。流動負債は、「学生生徒等納付金」について次年度の校納金を前年度までに納付してもらい「前受金」としていましたが校納金の納付方法を口座振替へと変更したことにより、「前受金」計上が前年度より203,364 千円減少して1,133,661 千円となりました。当法人は、借入金はありません。

純資産は、第1号基本金（「現有の固定資産の金額」の財源的裏付け）に154,874 千円を組み入れたことにより、18,028,753 千円となりました。繰越収支差額は、前年度より349,700 千円の支出超過となりました。その結果、自己資本に当たる純資産（基本金＋繰越収支差額）は、前年度より196,826 千円減少して17,203,156 千円となりました。

最終的に、負債および純資産の部合計は、前年度より404,473 千円減少して18,514,736 千円となりました。